

資料編

目 次

発表資料

- 子どもたちのネット環境の「いま」…………… 1
- 熊本でのサイバー防犯ボランティア活動と児童被害防止……………10
- サイト健全化に向けた DeNA の取り組みについて…………… 20
- グリーの取り組みについて……………23
- LINE の取り組み……………32
- 児童被害防止に向けて……………50
- 責任あるクラウド:オンライン被害防止……………56

子どもを取り巻く ネット環境の「いま」

兵庫県立大 竹内和雄

兵庫県立大学

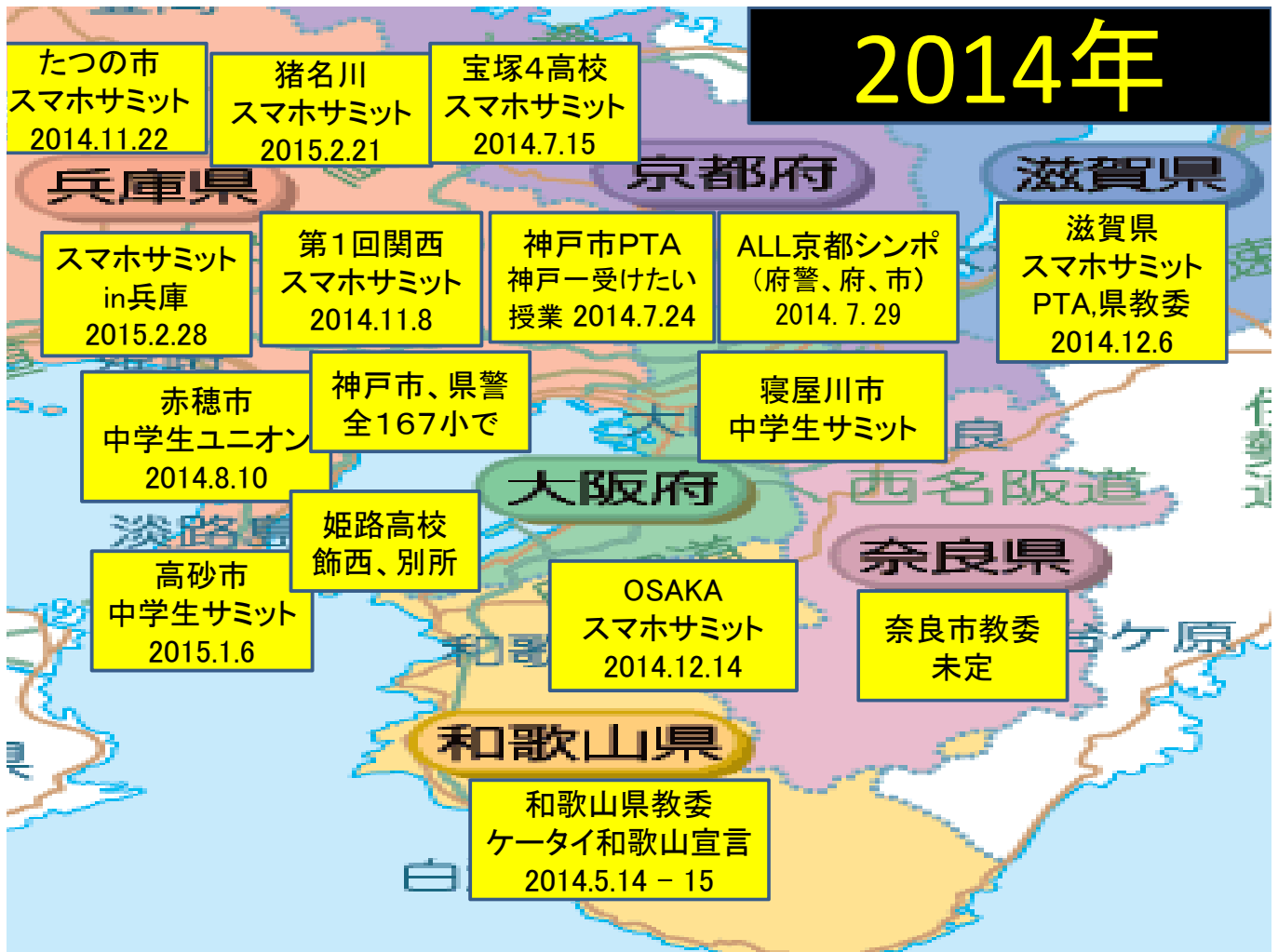
教職担当

元中学校教員

関西各地で「スマホサミット」

→子ども自身が議論し対策

2014年



子どもたちに聞いた「いま」

- 時間があれば詳細を
- 地域性？
→ 関西の事例？

子どもたち（最近の特徴）

1) スマホ化

→ガラケー終了？ お下がり →Wi-Fi（さらにゲーム機へ）

2) 低年齢化

→ケータイ・ネイティブ2世 →生まれたときからスマホ

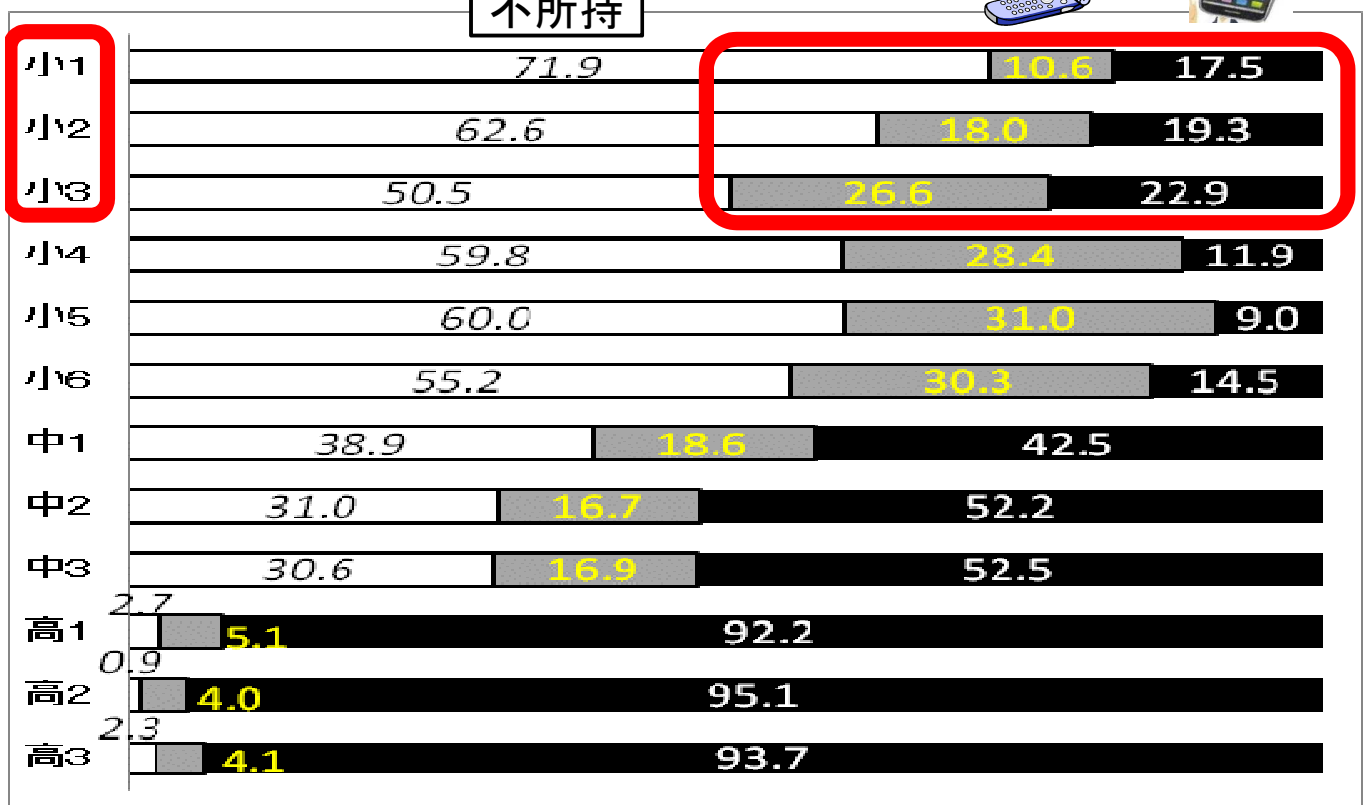
3) 無自覚化

→ガラケー 匿名で悪口等 →明確な悪意

→スマホ 基本的に実名 →無自覚にトラブルに巻き込まれる

1) 低年齢化

兵庫県猪名川町全小中高校生 携帯電話所持率%



対策の方向性

1) 保護者対策

→**ケータイネイティブ** →知っているつもり(講演会に来ない)

2) 教職員対策

→**親の問題** →「帰宅後のことだから限界がある」

3) 子ども対策

→**先生も先生も信用しない** →「みんな言ってる」「メール？」 →昭和

他律から自律へ

1) 自律への方策

→**麻薬、覚醒剤** →目の前にあってもやらない(自律)

→**スマホサミット** →関西中心に約30カ所

2) 制限の必要性

① 看過できない現状

→**違法サイト(アダルト、出会い、詐欺)** →UNICEF熊本

② 知らない大人

→**両極端(放任、厳禁)** →PTAさえ

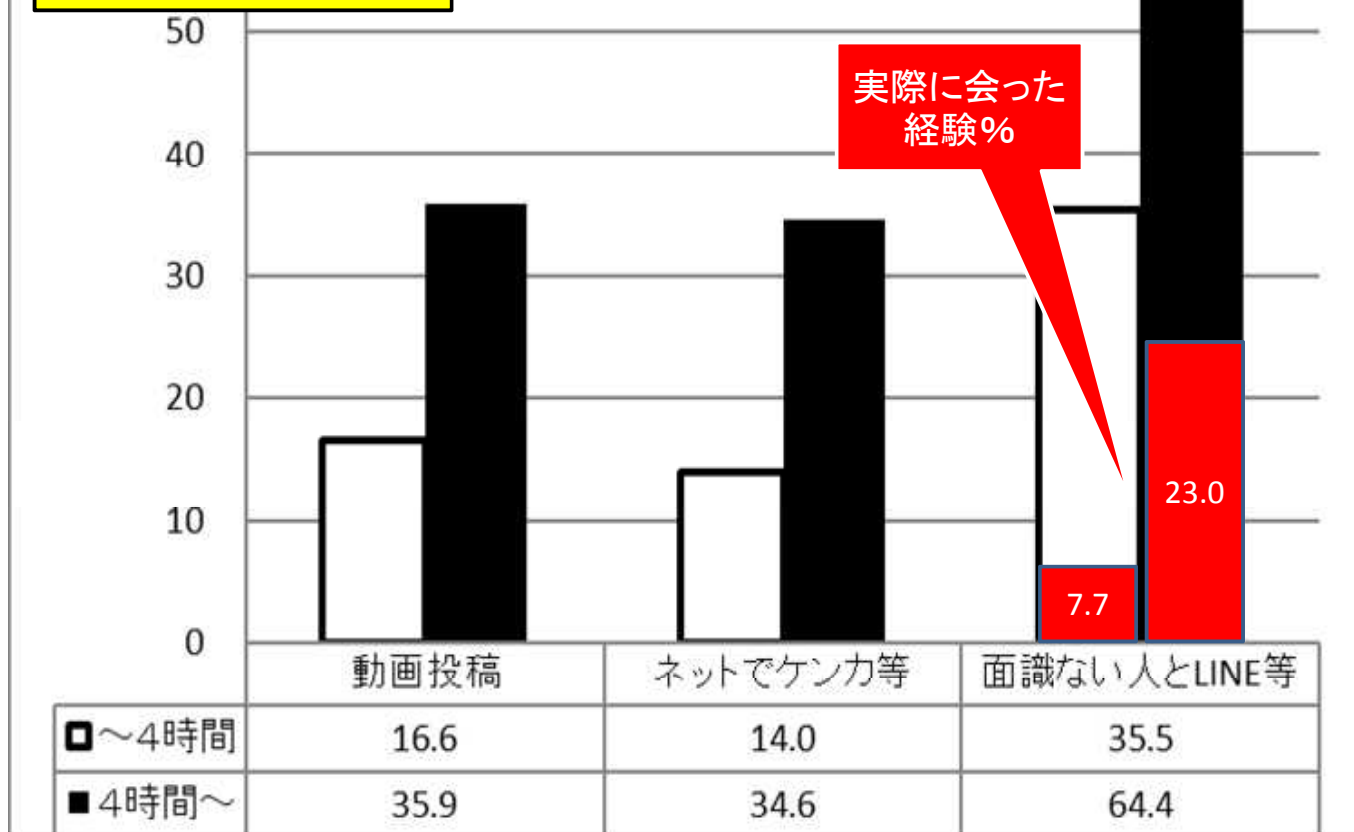
現状

- ①LINEがインフラ化 →禁止はナンセンス(賢く→教科書)
→タイムラインで周知→グループトーク
- ②テレビからYouTubeへ
→下宿にテレビなし →「テレビは途中から始まる」
- ③高校生ぐらい 熊本の中学生
→タイムラインからTwitterへ →コチャはDM
→検索もTwitter? →Googleは広告?

大阪スマホサミット(4万人調査)

小中高生(大阪府)が実態調査
DeNAが集計
竹内研究室が分析

違い3%



面識ない人との出会い

「友達の友達」「同じ趣味」「コンサート会場で」

→ほとんどは健全で安全(かなり警戒)

「友達が怖い経験」

→「派手な子」の被害は少ない→状況判断

→危ないのは「真面目な子」

子どもたちから(地域性?)

2年前 出会い系サイト

1年前 出会い系アプリ(?)

いま 普通のサイト

↓ Twitter、LINE

→「Twitterは何でもあり」「ペナなし」

1) 危険な現状

① 出会いは

高校生 「出会いはTwitter」

#援交 新宿

② エロ動画

無修正 → まとめサイト等

交流サイトを通じた性被害等 平成28年10月20日(警察庁)

- 1位 180件 Twitter
 - 2位 78件 ぎゃるる
 - 3位 63件 LINE
 - 4位 48件 友達作りトーク
 - 5位 36件 ツートーク
- 22件 出会い系サイト全て

2) 企業努力

① 言葉で削除

DeNA GREE

400人体制で24時間?

業界として協力?(機械?AI?)

② 最後は目視?

最近では動画なので

③ 年齢を携帯事業者から(ゾーニング)

LINE等 金額?

3) 警察として

①教材

警察庁が情報提供

企業が政策

大学等と連携

産官学が連携して作成？

②サイバー補導

666人

サイバー警告？ → 捜査

熊本でのサイバー防犯ボランティア活動と児童被害防止

熊本学園大学 堤 豊

目次

- 取り組みの概要
- 通常の活動
- 熊本地震
- 児童被害防止

熊本の大学



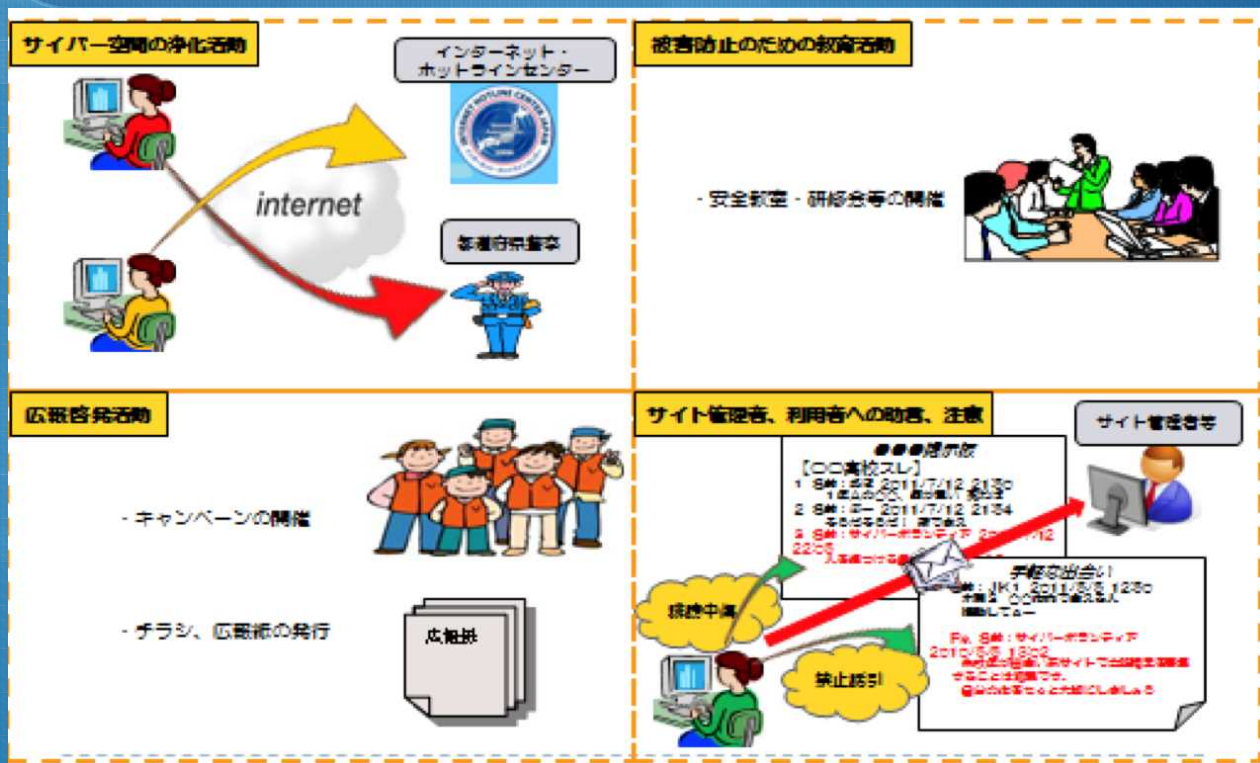
- 国立
 - 熊本大学
- 公立
 - 熊本県立大学
- 私立
 - 熊本学園大学 (商・経・外・福)
 - 崇城大学 (工・情・薬・芸)
 - 東海大学 (経営・基盤工)

熊本県の人口 177万人
うち
熊本市の人口 74万人

熊本での取り組み

- 平成22年
 - 総合セキュリティ対策会議
 - 安全・安心で責任あるサイバー市民社会実現にむけた対策について
- 平成23年
 - 熊本県情報セキュリティ推進協議会(当時)で話題提供
 - 熊本学園大学で発足
- 平成24年
 - 熊本県立大学で発足
 - ポスター作成
- 平成25年
 - 熊本大学で発足(1年限り)
- 平成26年
 - 卒業時に協議会より感謝状贈呈
 - シニアのためのスマホ講座・個別相談会
- 平成27年
 - 協議会で学生部会と位置づけ・県警にてボランティア任命式
 - 崇城大学・東海大学熊本キャンパスで発足
- 平成28年
 - 熊本地震でデマ情報収集
 - 児童被害防止に協力

サイバー防犯ボランティアに期待される役割



平成22年度総合セキュリティ対策会議報告書より

活動の概要

- ネットパトロール
 - ネット上の違法・有害情報をIHCに通報
- 講話活動
 - 県警と協力して地元の小中高でLINEの正しい使い方などの講話
 - シニアのためのスマホ講座・個別相談会
- 啓蒙活動
 - 啓発ポスターの作成
 - イベントでのチラシ配り

ネットパトロール

- 通常授業期に週1度、1時間程度
- 平成27年度は127件をIHCへ通報
 - 3件:警察庁へ
 - 1件:管轄県警へ
 - 1件:厚生労働省へ
 - 1件:
 - その他:
 - プロバイダへ
 - フィルタリング業者
 - 海外サーバ



大学生がネットパトロールに適任な理由

- 高校生までは未成年
 - 過激な性描写等に接する機会がある
- 情報スキルが必要
- 最新のメディアに対応
 - スマホ、SNS等、時代の変化に敏感
- 自由な時間
 - 社会人に比べ自由な時間が多い
- 設備
 - 自前のパソコンではウィルス感染の危険がある
- 仲間
 - 一人でやるのは危険

講話

- 近隣の小中学校で県警と協力
- テーマは「正しいLINEの使い方」
- 大学生が15分程度、県警が45分程度。



クマガク生が教える シニアのためのスマホ講座

クマガク元気プロジェクト 地域に貢献する熊本学園大学の学生が「学び」を地域に還元し、南本に元気を発信する企画です。



通話が無料って本当？
ラインで詐欺に？
個人情報が盗まれた？
スマホってなんだから怖い

参加無料 安全に スマホ を始めましょう！
スマホの楽しみ、クマガク生がお手伝いします。

講座内容	大学生による講義
第1部	「安全安心にスマホを使うために」
第2部	個別相談・ラインの設定
	スマートフォンをお持ちの場合はご持参ください。また、お持ちでない場合、販売や製品のご紹介はいたしません。一般的なアドバイスをいたします。
日時	2016年1月23日(土) 10:00~12:00
場所	熊本学園大学 14号館1階
募集人員	50名様 (先着・参加無料)
お申込み	熊本学園大学 学術文化課 096(364)8729

熊本学園大学(熊本市中央区)で1月23日、同大学の理学部経営学科・選修2年の学生によるシニアのためのスマホ講座が開催されました。スマートフォンを安全安心に使うための基礎講座から、受講者一人一人の疑問、質問に答える個別相談まで、学生が主体となり企画・運営したイベントの様子をお伝えします。

文 大文字 専攻 専攻 専攻

講師は大学生！シニアのためのスマホ講座で広がるスマホ生活

早稲田の講義でスマホを使う上での基礎知識を学ぶ参加者

「スマホって何？」「LINEって何？」「写真ってどう撮る？」など、参加者からは様々な質問が寄せられました。学生たちは丁寧に説明し、参加者の疑問を解消してあげました。

「スマホって何？」「LINEって何？」「写真ってどう撮る？」など、参加者からは様々な質問が寄せられました。学生たちは丁寧に説明し、参加者の疑問を解消してあげました。

学団大「サイバー防犯ボランティア」によるスマホ講座のポイント

「スマホの種類とメリット」「スマホを安全・安心に使うには」

●スマホの種類とメリット
スマートフォンには大きく分けてAndroidとiPhoneの2種類があり、画面もそれぞれ異なります。

●スマホを安全・安心に使うには
悪意のある第三者から個人情報を守るには、個人情報を公開しない、個人情報を公開する場合は信頼できる相手に公開すること、個人情報を公開する場合は信頼できる相手に公開すること、個人情報を公開する場合は信頼できる相手に公開すること。

啓蒙活動

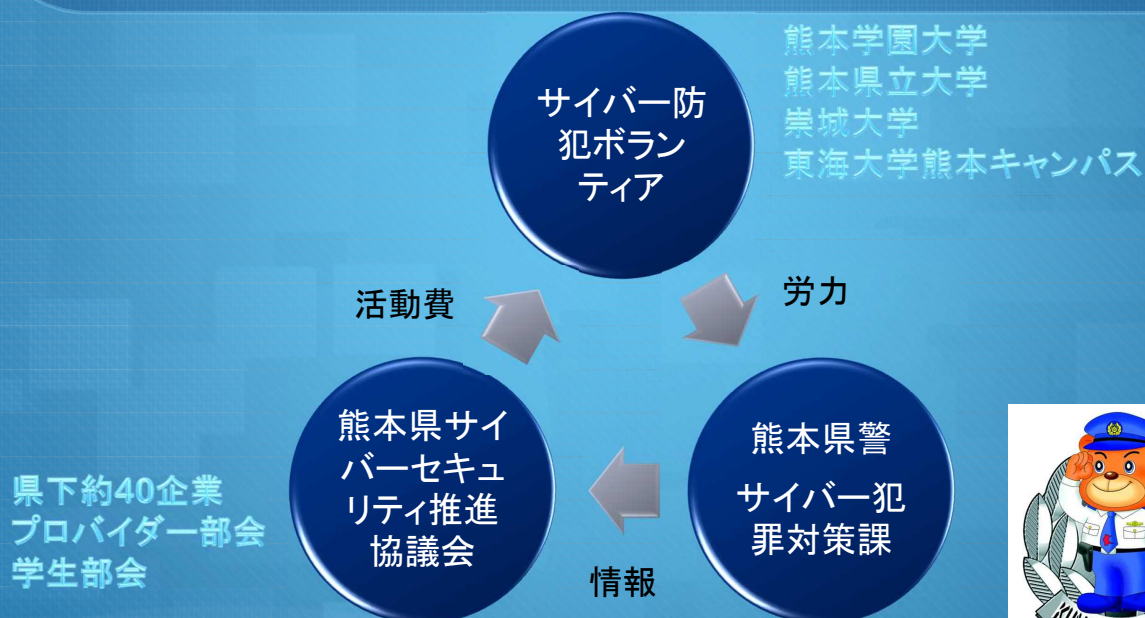
- チラシ配布
 - 県警主催のイベント
 - 大学の学園祭
- 県警・協議会主催のサイバーセキュリティカレッジへの協力
- ポスター・標語作成
 - 県内の学校へ講話時やカレッジで配布



ボランティア継続の要因

- 熊本県警の指導・協力
 - 立ち上げ時及び随時の指導
 - 講話会場への送迎
 - 最新情報の提供
- 文系であること
 - 理系学生のように技術に走らない
 - コミュニケーション能力が高い
 - プレゼン能力が高い
- 協議会の存在
 - 経済的援助
 - 感謝状贈呈
- 大学間の連携
 - 教員の存在
 - 引き継ぎ、役割分担、叱咤激励
 - ゼミ単位での取り組み
- マスコミ
 - 記事やニュースによる鼓舞
 - 飽きない工夫
 - スマホ講座
 - ポスターや標語の作成

協力体制



熊本地震におけるサイバー防犯ボランティアの活動

- 2016年4月の熊本地震においてデマ情報が拡散
- デマ情報を収集し県警に提出
- 180件のデマ情報のうち48件が学生ボランティアが収集したもの
- 「ライオンが動物園から逃げた」というtwitterのデマ情報については県警が逮捕(威力業務妨害)

反響と炎上

パトロールの様子を全国テレビが取材。その後、2chやyoutubeでの揶揄するコメントで学生が委縮。

Twitterで「ライオンが逃げた」の発信源の男性が逮捕されたこと、県警からの感謝状で、学生の意識も向上。

32 : 名無しさん@1周年:
2016/05/09(月) 03:07:08.87
ID:/2j+16RG0

そんな暇あるならボランティア行けや
熊本県の間人がたすけてやれよ

33 : 名無しさん@1周年:
2016/05/09(月) 03:07:43.47
ID:z2k53GG/0

そんなコしてるより外でボランティア
してこいよ
何してんだ熊本って(´・ω・`)

児童被害防止活動への協力

- 7月28日に警察庁より熊本にお見えになり依頼
- 8～10月で167件を警察庁に通報
- 崇城大学の学生が検出アプリを開発
- 熊本市三和中学での性被害防止の講話

学生の反応と対策 (パトロール全般に関して)

- 日本のSNSの闇を見た(男子学生)
 - パトロールは必ずグループで
- 強烈な画像でショックを受けた
- パトロールは教室でやらないと無理
 - 大学で教室を確保
- 関係ない学生が見ると Hentai と思われる
- 家族に見られると困るので家ではできない
- 自分のIDだと履歴が残る
 - 専用IDを作成すべき
- 通報を簡単にして欲しい
 - フィードバックの仕組み
- 通報後のフィードバックが欲しい
 - パーソナライズページなど
- 機械化での問題点
- ボランティアのプライバシー・掲示板の反応
 - 個人情報・炎上ケア

今後の課題（ボランティア活動の活発化に関すること）

- 中心となる教員の確保
 - 大学の施設、時間、規則の交渉役として
 - 学生の引き継ぎ、県警や外部への連絡窓口
- ボランティア員への満足感の付与
 - 障がい者、災害弱者等に対するボランティアとは違い、直接お礼を言われることがない
 - メディアへの紹介、感謝状、人を相手にする講演会などの機会をできるだけ作る
 - 単位化の可能性
- フィードバックの仕組み（ボランティア向けの特別IDやパーソナライズページなど）
- 学生の個人情報の保護
- 炎上からの保護・ケア
- 定期的な情報交換の必要性

今後の課題（児童被害防止に関すること）

- 講話活動の強化
- パトロールに親世代を巻き込めるか
 - 主婦を中心としたサイバーボランティアの可能性
- デジタルデバイドの解消
 - 世代間（親はガラケー、子どもはスマホ）（Wi-Fiを知らない親世代）→スマホ講座などの実施
 - 小中高教員→教員免許更新講習や夏期講習などでのセキュリティ講習義務付け？

サイト健全化に向けた DeNAの取り組みについて

DeNA

株式会社ディー・エヌ・エー

Copyright (C) DeNA Co., Ltd. All Rights Reserved.

Confidential

mobage利用原則ルールと健全性強化の各種取り組み

Mobage利用原則ルール

- ・サイト外での出会いを求める一切の行為の禁止
- ・違法行為・誹謗中傷・アダルト関連等、公序良俗に反する書き込み、営利目的の書き込み禁止
- ▶ 常時、利用動向、社会情勢等を踏まえ、ルールの見直し及び新設

青少年保護

健全性強化の各種取り組み

1 システム対応 ページアンフィルタリング	4 ペナルティ制度
2 人的対応 24時間365日300人体制による 審査・パトロール・問い合わせ対応	5 啓発活動
3 ユーザーとの協力関係構築 通報制度など	6 健全コミュニティ委員会の定期開催 トラブルの未然防止、問題の早期発見・対応

サイトパトロールの仕組みについて

システムと人的リソースでのチェックを実施

1日1,000万以上の投稿

ミニメール・チャット

1対1のメールの送受信ができる機能

サークル掲示板

同じ趣味や話題をもつユーザーが集り情報交換する機能

日記

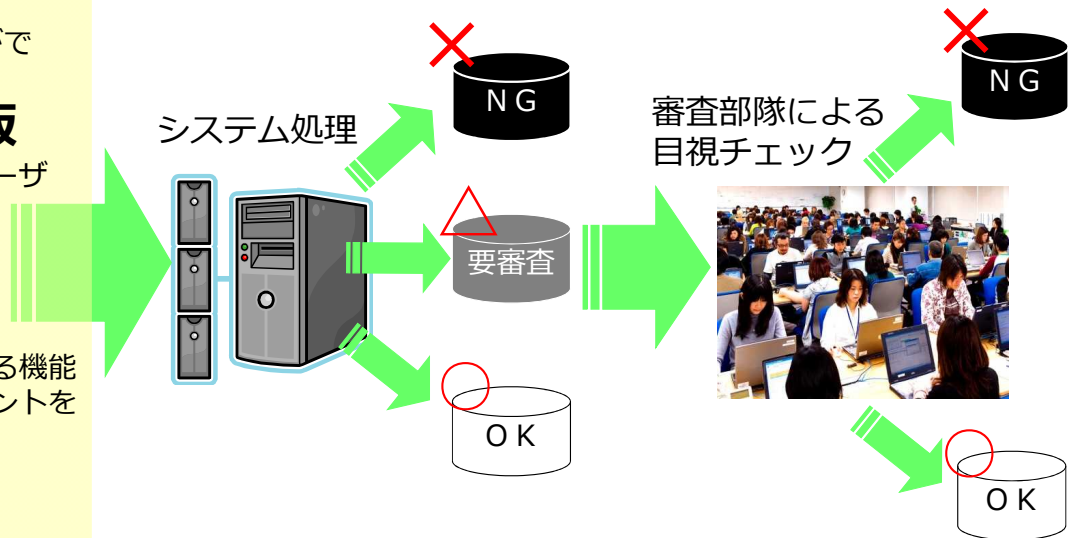
思ったことを日々投稿する機能
他のユーザーが日記にコメントを投稿できる

その他

約20の投稿コンテンツ

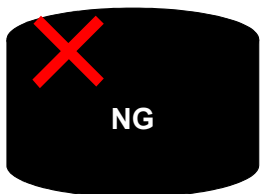
＜システムによる対応例＞

- ・ミニメール（メッセージ送信機能）利用制限
- ・NGワードの書き込み制限



3

システムでの対応について

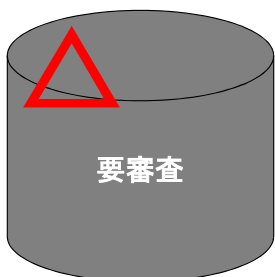


■ミニメール・チャット（メッセージ送信機能）利用制限

18歳未満は年齢が3歳以上離れているユーザーとのミニメールやチャットによるメッセージ交換が出来ないようにシステム的にブロックしている。
※13歳未満は一律ミニメールの利用を禁止（2007年12月から実施）

■事前の書き込み制限

悪質性の高い単語は、そもそも書き込みができないようにシステム的にブロックしている。



■キーワード審査

ルール違反の単語を含む文章が投稿・書き込みがされた場合、自動的にシステムがパトロール要員に通知をする仕組み。

■ルール違反の自動ピックアップ機能

過去にルール違反となった書き込み内容をシステムが恒常的に学習し、違反の確率が高い書き込みを自動的に抽出する仕組み。

■簡易年齢認証[2009年8月実施]

キャリアのフィルタリングサービスに加入しているユーザーはほぼ18歳未満との前提で、フィルタリングに加入している携帯を判定し、モバゲー内で18歳以上の登録をしている場合は利用制限をかけている。

18歳未満のユーザーは、友達検索やミニメの年齢制限を設けており、審査的に強化しているが、年齢を詐称している場合その対象とならないため、正しい生まれ年に変更するよう誘導を促している。

■特定ユーザー間利用制限（強制ブラックリスト）[2009年8月実施]

ミニメールの利用に伴う特定のルール違反を確認した場合、当該送受信者間でのコミュニケーション機能を一律で制限している。

4

人的対応について～サイトパトロールの様子～



東京



新潟

弊社サイトパトロール体制の特徴

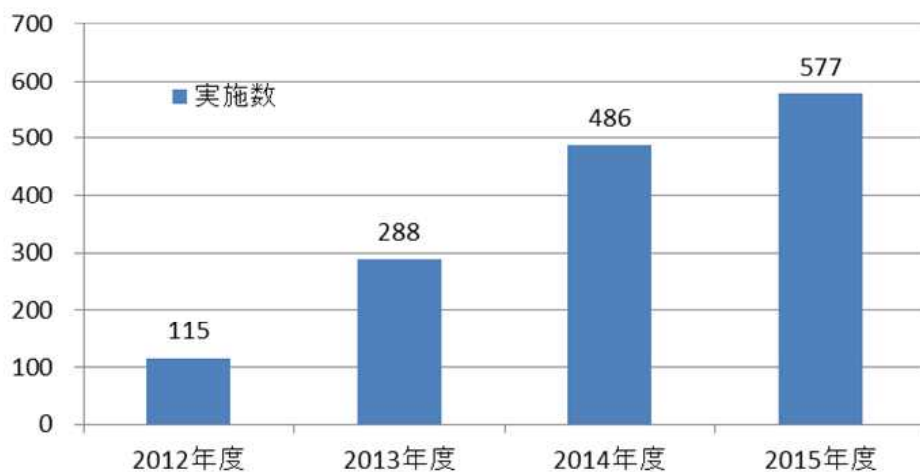
- ・東京と新潟の2拠点総勢300名体制
- ・24時間365日体制
- ・自社スタッフ

5

啓発活動「スマホ・インターネット利用時のトラブル事例と回避策について」



DeNA講座実施数



6

グリーの取り組みについて

2017/1/26



Copyright © GREE, Inc. All Rights Reserved.

構成



1 : グリーにおける状況・考え方の変遷

2 : グリーにおける施策

3 : まとめ

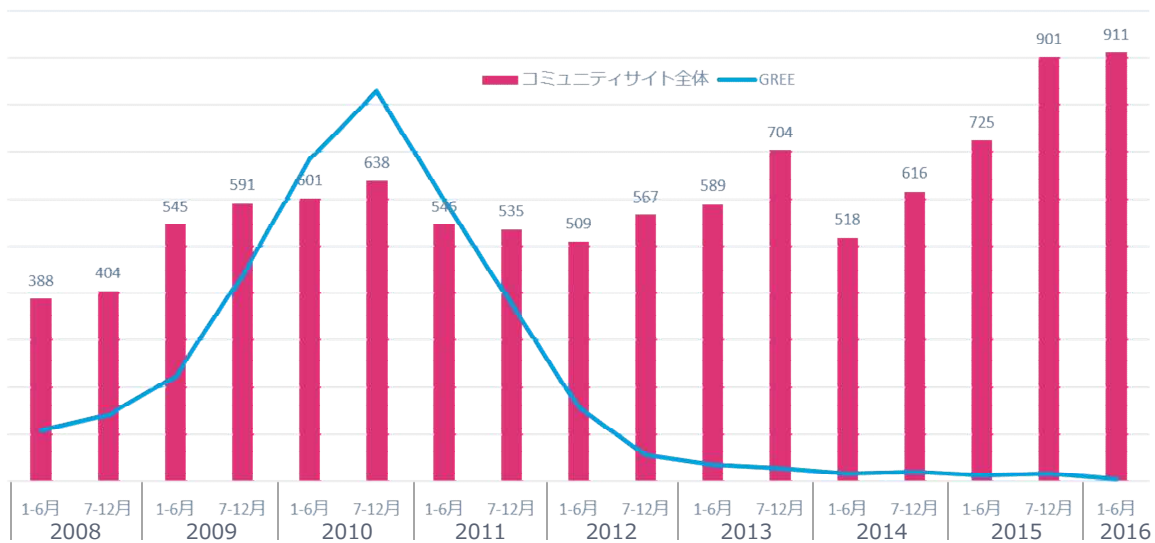
1 : グリーにおける状況・考え方の変遷

2 : グリーにおける施策

3 : まとめ

コミュニティサイト被害児童数の推移

メールの事前監視が奏功し2011年以降大幅に減少



2006/11~

メール以外の監視

2009/8~

年齢別機能制限

2010/7~

メール監視 (事後)

2011/5~

メール監視 (事前目視)

監視

3

青少年問題の対策導入・意見調整を経て、考え方・対応の面での学びを得た

ふりかえり

法的整理ができていないことを理由にメール監視施策の着手が遅れ、被害数の拡大につながった。同業他社は早期に着手し、問題を収束させた。

2010年3月総務省研究会にて「SNS内でのメール監視を実施するうえでの指針」が発表され事後監視を開始したが、あわせて効果の高い事前監視を導入するべきであった。

社会的影響が起きているなかで、「表現の自由」「インターネットの自由」「イノベーション」などを主張するスタンスを取り、課題解消への取組みが遅れた。

学び

被害防止の実効性を優先して、実施可能な要件を整理し、あらゆる対応を行う

言われたことに形式的に対応するのではなく、本質的に実効性のある施策に取り組む

企業市民及び地域社会の一員としての役割や責任を自覚し、課題に取り組む

4

Copyright © GREE, Inc. All Rights Reserved.

構成

1：グリーにおける状況・考え方の変遷

2：グリーにおける施策

3：まとめ

5

Copyright © GREE, Inc. All Rights Reserved.

青少年の出会いの問題に対してサービス面と啓発活動面の2つの柱で実施

1. サービス面での安全措置

1. 年齢別の利用制限
2. 禁止行為の周知
3. サイト内の監視

2. 利用者の情報モラル向上

1. 訪問・講演活動
2. 無料教材の配布
3. 啓発アプリ配信
4. イベント参加

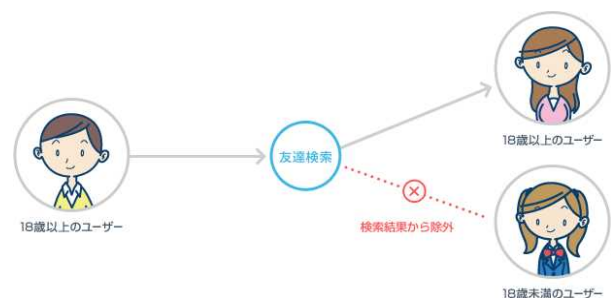
1. サービス面での安全措置

1-1. 年齢別の利用制限

成人と青少年の出会い目的のコミュニケーションを阻止

■ 友達検索からの除外

- 18歳未満のユーザーは、18歳以上のユーザーによる検索結果から除外



■ チャット機能の制限

- 18歳未満のユーザーと18歳以上のユーザーとのチャット送受信を制限



- さらに18歳未満のチャット送信は右記の相手に限定

13歳未満	一切送信不可
13歳	13歳～15歳の相手
14歳	13歳～16歳の相手
15歳	13歳～17歳の相手
16歳	14歳～17歳の相手
17歳	15歳～17歳の相手

1. サービス面での安全措置

1-2. 禁止行為の周知

出会い目的を禁止する等のルールを明示し、利用者への注意喚起を徹底

サービス内のご案内

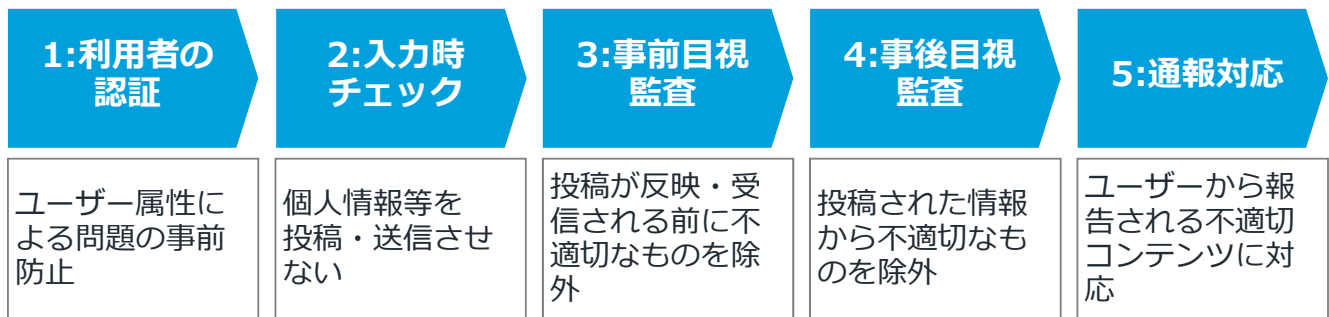
 Gree運営ポリシー 「あんしん・あんぜん」なコミュニケーションのために GREEは世界各国からたくさんの方がご利用になられています。GREEでは、全ての方が「あんしん・あんぜん」にサービスを楽しめるよう、ルールの明示や機能の提供を行っております。このページには「あんしん・あんぜん」なコミュニケーションを行うためのヒントがたくさんあります。ひとりひとりがそれらに意識を傾けることによって、健全でより快適にGREEをご利用いただくことが可能となります。 「あんしん・あんぜん」にGREEをご利用いただくためにぜひご確認ください。 ご注意ください みなさまにご注意いただきたい悪質な案件についてお知らせ致します。 事例最新情報 「GREE」のなかで、より安全にソーシャルゲームを楽しむために、次の点に注意しましょう。 「GREE」でソーシャルゲームを楽しむ際の注意点	 GREEを楽しむためのルール 「ちょっと会うだけ」「メールアドレスくらいなら」そう思うかもしれませんが、 しかし知らない人に連絡先を教えること、会うことで、実際に事件に巻き込まれたり、深い傷を負ってしまうこともあります。 「だじょうぶ」と思っている、いつトラブルに巻き込まれるかわかりません。 会うことのないその人は、本当にあなたの想像通りのいい人でしょうか? 個人情報・連絡先を教えない 一度教えたら取り戻せない! 知らない人とは会わない 相手がどんな人か本当に理解してる? 誹謗中傷しない その言葉が相手を傷つけているかも?!

保護者向けご案内

 ケータイ・インターネットの歩き方 インターネットを利用する上でよくある質問と対応 (FAQ) (この項目は、法律などの難しい表現があるので、保護者の方や身近な大人と一緒に読みましょう。それぞれの問題を自分の立場になって、一緒に考えてみてください。) 発言や投稿などをする時に注意することはありますか? 他の利用者の権利を侵害するような内容の投稿や違法な内容の投稿 (たとえば、他人の個人情報やプライバシーに関する情報の掲載、名誉毀損や著作権侵害となるような記載、わいせつな内容など) は、損害賠償責任を負ったり、刑事罰の対象となったりする場合があります。また、ご利用のサイトの規約で特定の内容の投稿が禁止されている場合があります。インターネット上の投稿は、広く第三者が閲覧可能なので、投稿前にはよく注意してください。 画像や写真などを掲載する時に注意することはありますか? 他の人が撮影した写真や作成した画像には、その人の著作権があります。また、画像や写真に他の人が描かれていた場合、描かれている人の肖像権等があります (これは、写真だけではなく、似顔絵などの場合でも同じです)。また、有名人の写真の場合ですと、パブリシティ権という権利がある場合もあります。これらの画像や写

1. サービス面での安全措置

1-3. サイト内の監視



2017年3月から一部監査方法を変更し、青少年が受発信する投稿やチャット等に関して優先的に監査する方式となる予定、より実効性の高い監視へシフトする。

2.利用者の情報モラル向上

何故、GREEが啓発活動を行うのか

- ✓ 発生する問題によっては、システム面での青少年保護施策だけでは阻止できないケースがある
- ✓ サービス利用者に、インターネットを適切に利用いただく事が、課題解決においては非常に重要である

サービス提供社として、
利用者の正しいインターネット利用を促す
啓発活動を行う必要がある

10

Copyright © GREE, Inc. All Rights Reserved.

2.利用者の情報モラル向上

全国の学校／PTAとの連携活動を推進

学校現場での支援

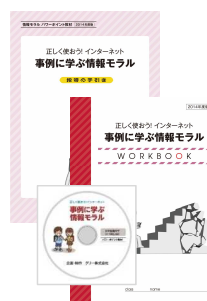
訪問・講演活動



学校にて、生徒・PTA（保護者）・先生等向けに、ネットの利用に関する講演活動を実施

教材による教育支援

教材の配布



中高生向けに情報モラル教材（冊子、CD）を作成し、全国に無料配布

アプリ配信



中学生以上向けに無料の情報モラル啓発アプリを制作、指導ガイドも配布

PTA・教育委員との関係構築

イベント参加



PTA、地方自治体、教育委員会等のイベントに参加し、ネットルールを学ぶ企画を出展

11

Copyright © GREE, Inc. All Rights Reserved.

2.利用者の情報モラル向上

講演・メディアを通じて情報モラル
の向上に取り組む

啓発講演



2.利用者の情報モラル向上 啓発アプリご紹介

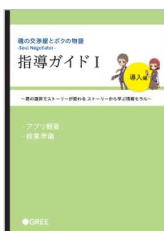
「魂の交渉屋とボクの物語 - Soul Negotiator -」（たまボク）を提供、
学校の授業に導入頂くための「学習指導ガイド」も配布。



■アプリ概要

青少年が情報モラルを自ら学べる環境構築を目的として、千葉大学教育学部 藤川大祐教授監修のもと制作。「ネット炎上」、「出会い・交際」、「ネット依存」、「ネット犯罪」、「ネットいじめ」というテーマに沿った、10個のストーリーを通して情報モラルを学ぶことが可能。第12回日本e-Learning大賞ゲーミフィケーション部門賞

指導ガイド・ワークシート



指導ガイド I

- ・ アプリ概要
- ・ 授業の準備



指導ガイド II

- ・ テーマとストーリー解説
- ・ 学習のねらいとあらすじ



ワークシート

- ・ アプリ体験後のワークシート



1：グリーンにおける状況・考え方の変遷

2：グリーンにおける施策

3：まとめ

ベンチャー企業が社会的信頼を得るために



- ✓ 新しいサービス・製品の登場の際には新しい問題が発生しうる
- ✓ 提供会社として法律遵守は当然であり、くわえて社会的に広く受け入れられることが重要
- ✓ 企業市民及び地域社会の一員としての役割や責任を自覚し、課題の解決に対して継続的に取り組んでいく



Copyright © GREE, Inc. All Rights Reserved.

LINEの取り組み

みんなで考える情報モラルとコミュニケーション

LINE株式会社

LINEのご紹介

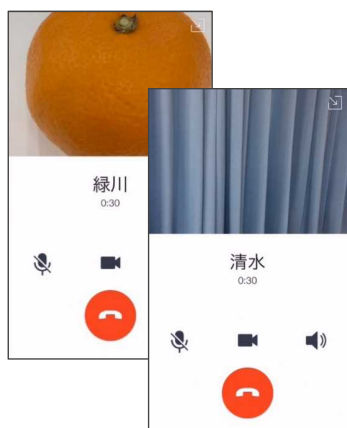
2



“大切な人”とつながる。
コミュニケーションサービス「LINE」

無料ビデオ通話/ 無料音声通話

スマートフォンやPCで、クリアな音声品質で、いつでも、どこでも無料で好きなだけ長電話できます。



無料メール/ メッセージ

友だちとメールがわりに、サークルの仲間とMLがわりに。テキストだけでなく、絵文字や写真、地図も送れます。

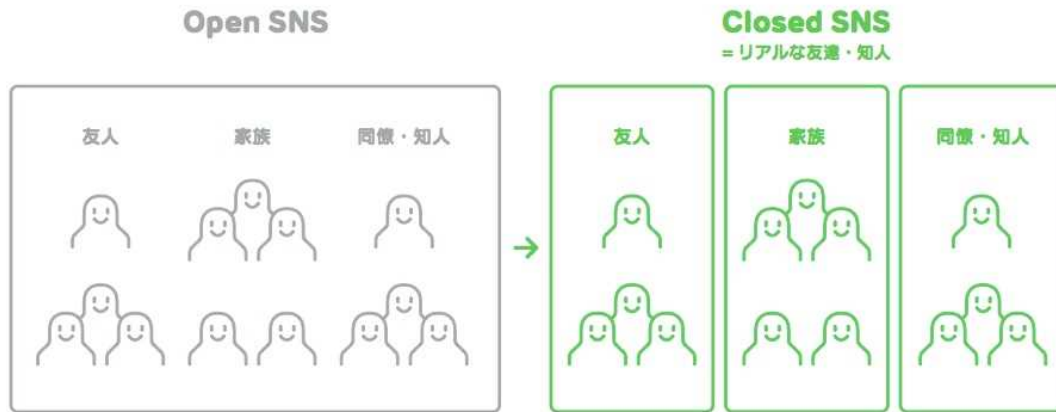


グループトーク

3人以上の友だちで「グループトーク」を楽しむことができます。全員が同じ画面でトークするので、話の流れを一目で確認できます。



LINEは「リアル」な友だちとのつながりを
より簡単に、楽しく充実させるための
「クローズド」なコミュニケーションツールです



LINEができたきっかけは・・・ 2011.3.11

LINEの主な機能 トーク グループトーク

トーク機能とは？

友だちと文字を使ったリアルタイムの会話ができます。
いわゆる「チャット」と同じですが、LINEでは、双方の通信キャリアに関係なく無料で会話ができ、文字のみならず、より自分の気持ちを伝えられる「スタンプ」というイラストを送ることができるなど、コミュニケーションをより楽しく演出するさまざまな機能が利用できます。
文字やスタンプだけでなく、写真や動画、音声、さらには位置情報も送れます。トーク中に見てもらいたい画像や待ち合わせの場所の位置情報を送ることで、コミュニケーションをスムーズに進めることが可能です。



複数で同時にできるグループトーク

LINEでは、複数人でトークが楽しめます。
複数の人に連絡をする必要がある際に、LINEのグループトークを使えば一度に素早く用件を伝えることができます。
仲よしの友だちでグループを作ったり、趣味の仲間ですークル的な活動をしたりと、さまざまに活用できます。
現在のグループ参加最大人数は200人です。





青少年のLINE利用実態

全国の小学生から高校生までにLINEの利用実態アンケートを行いました。その集計結果（一部）についてご紹介いたします。

アンケート実施日 : 2014年10月～2015年3月
 ワークショップ授業や講演会 実施後に配布・回収

対象 : 小学生（5～6年生）、中学生、高校生

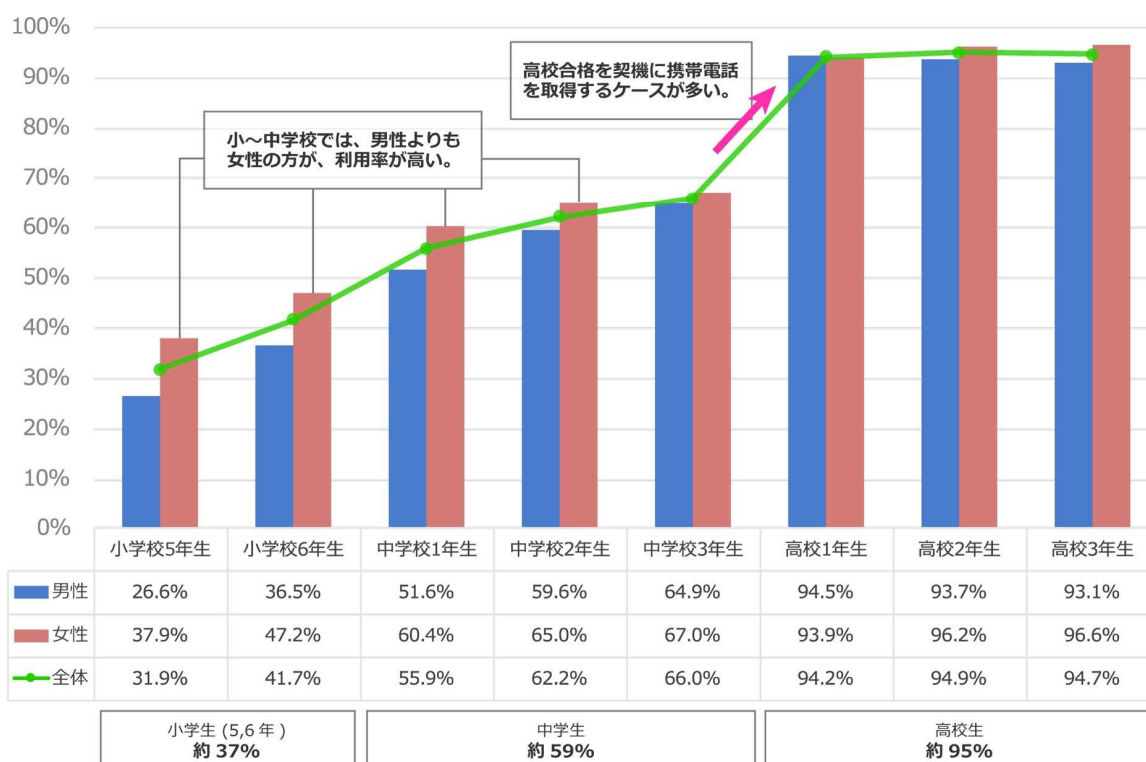
回収枚数 : 30,848件

© LINE Corporation

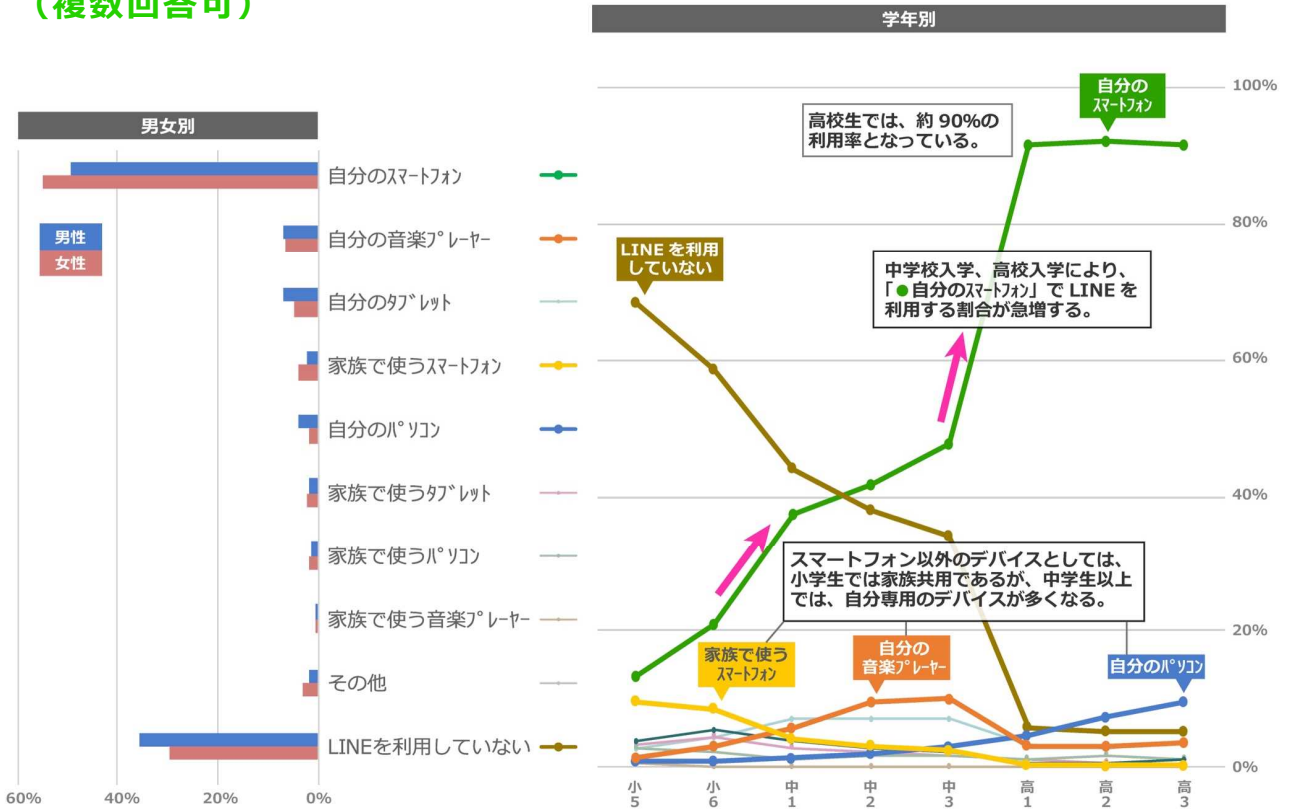
青少年のLINE利用実態

6

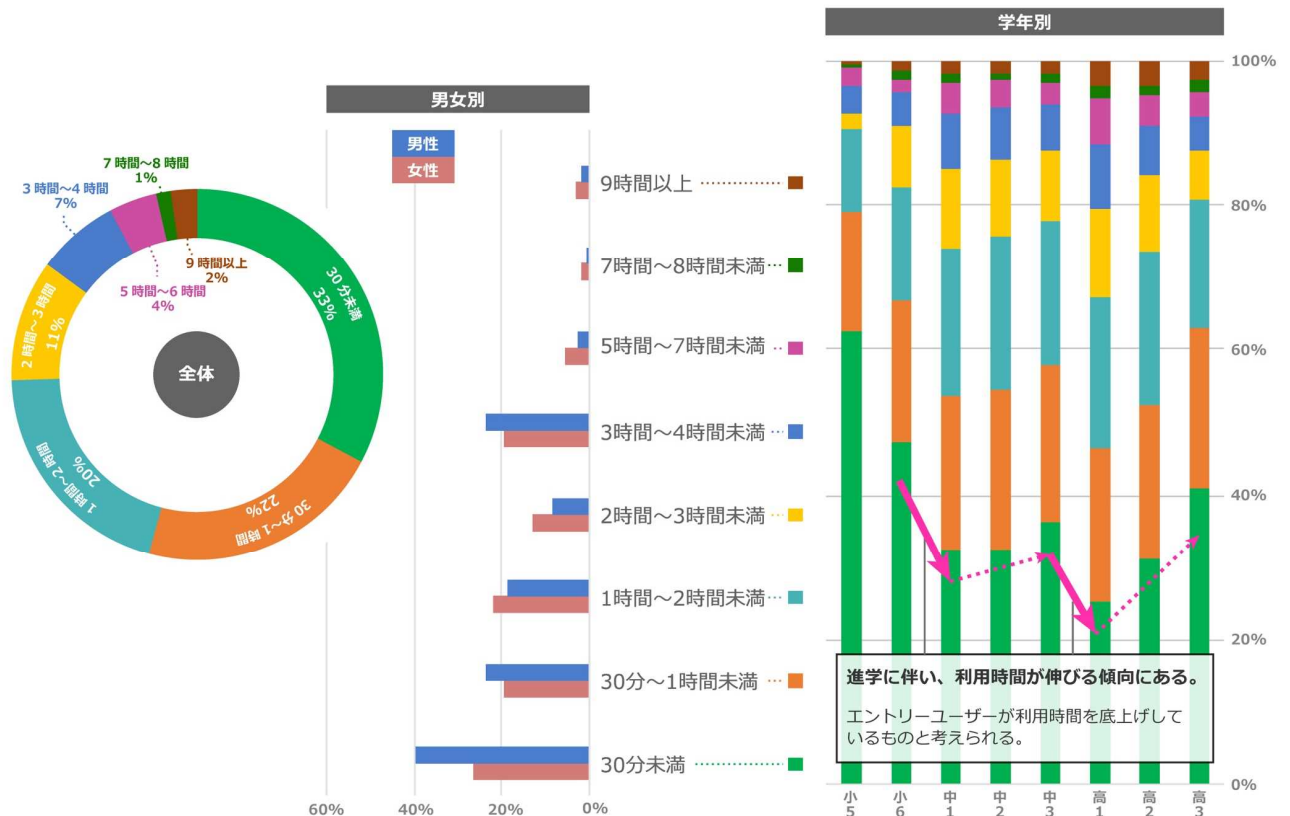
1. 学年別 LINE利用率



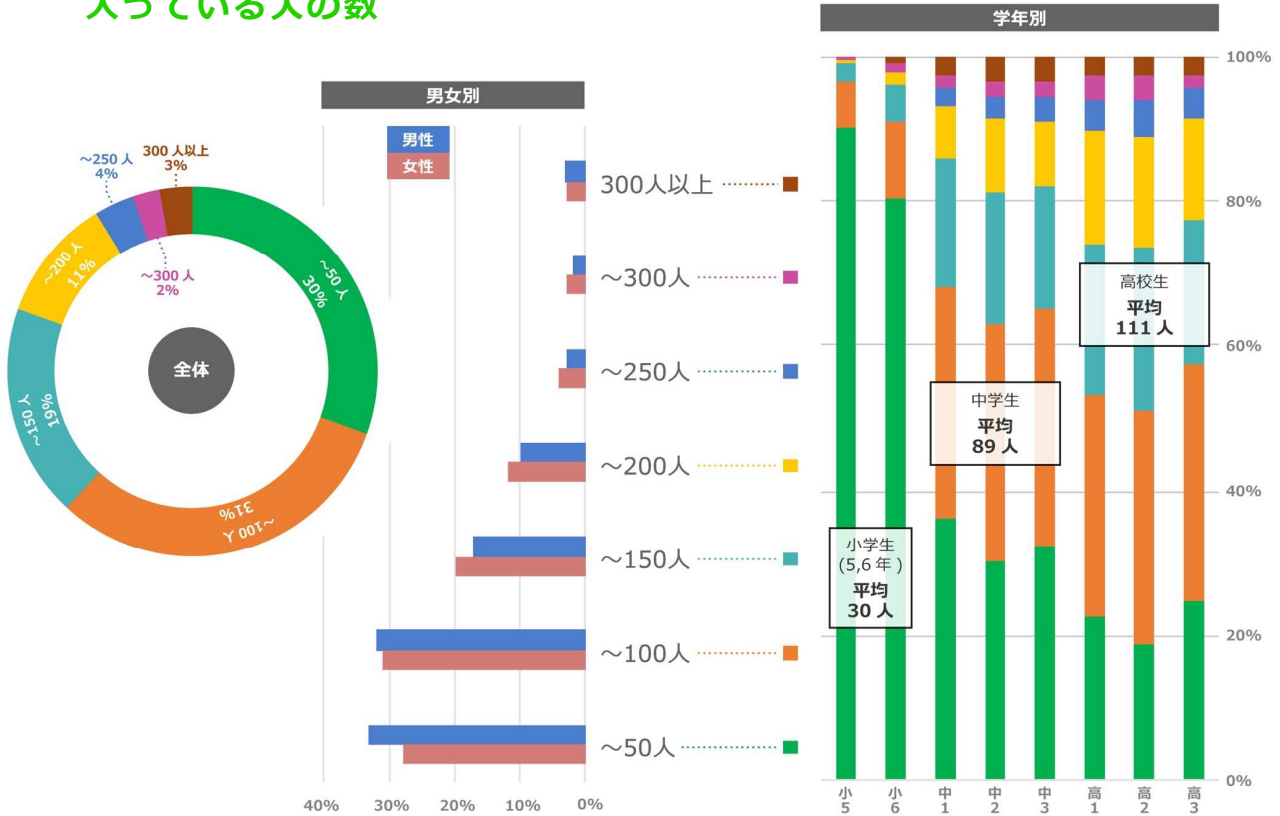
2. LINEを利用する機器
(複数回答可)



3. 1日あたりのLINEの利用時間

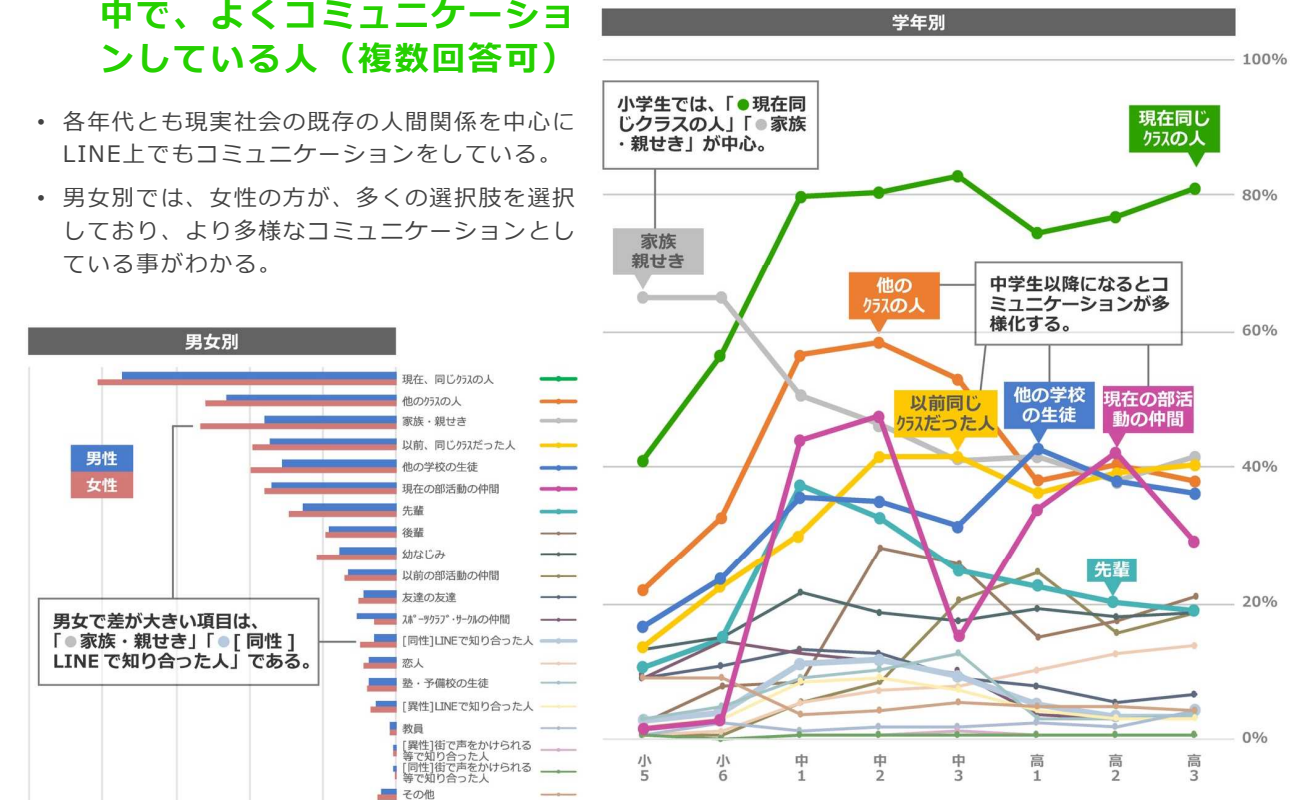


4. LINEの「友だちリスト」に入っている人の数



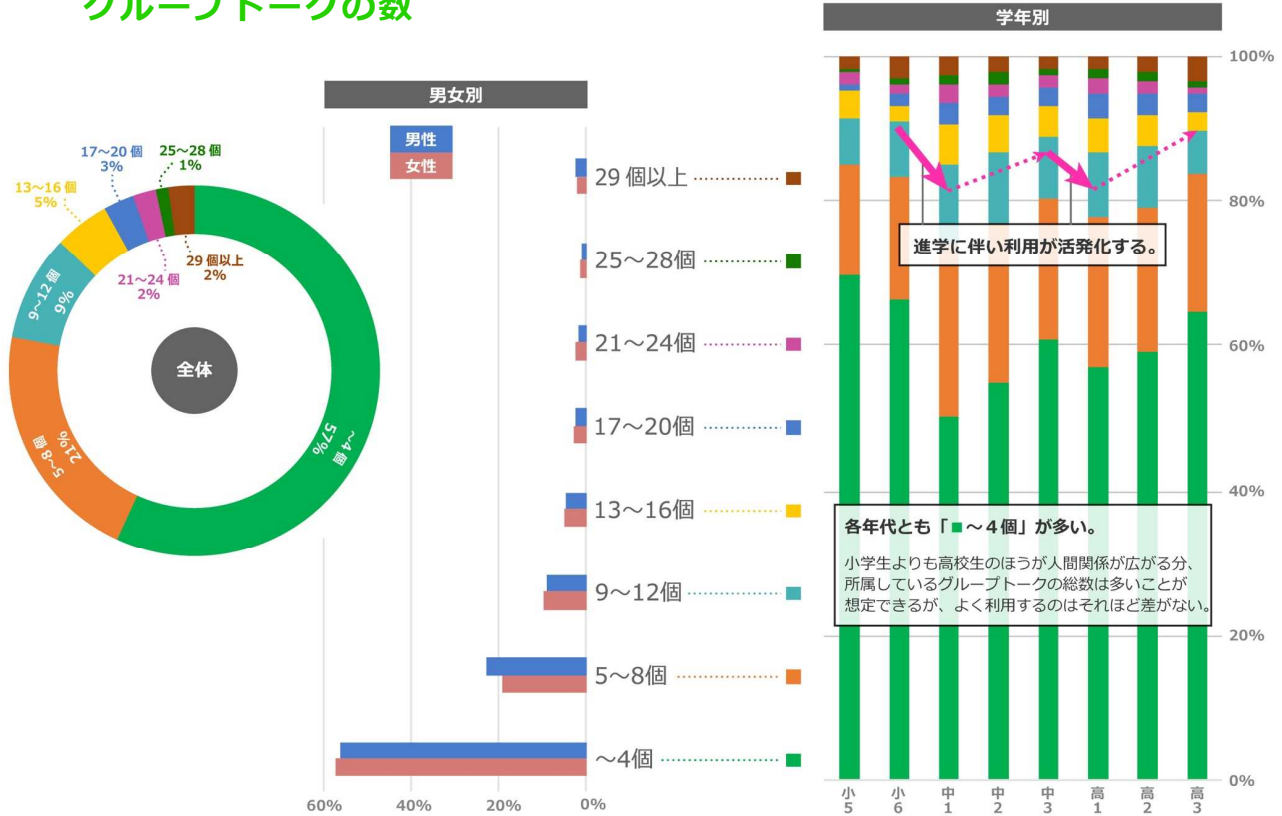
5. LINEの「友だちリスト」の中で、よくコミュニケーションしている人（複数回答可）

- 各年代とも現実社会の既存の人間関係を中心にLINE上でもコミュニケーションをしている。
- 男女別では、女性の方が、多くの選択肢を選択しており、より多様なコミュニケーションをしている事がわかる。



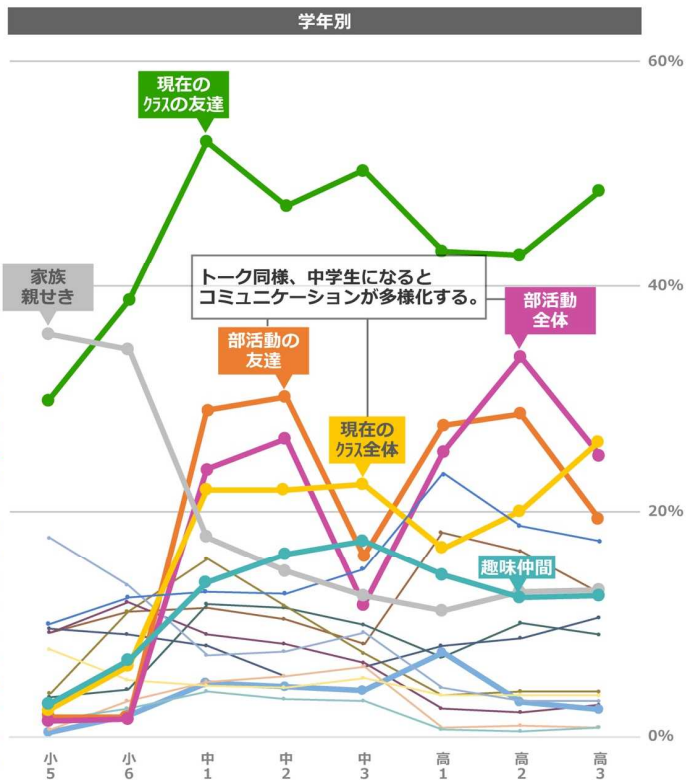
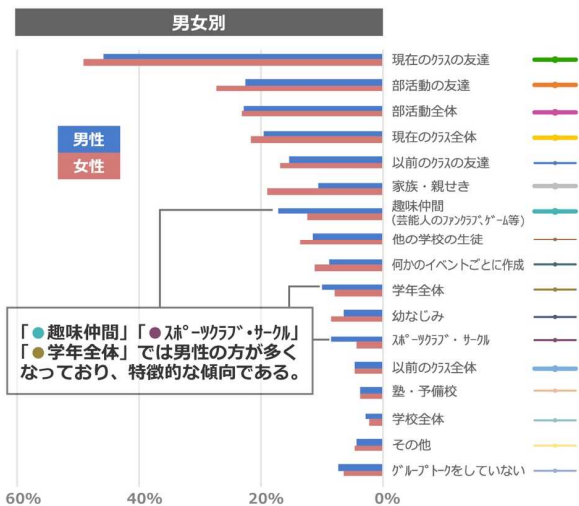
※ 中学3年生の「現在の部活動の仲間」が減少しているが、調査時期が10月以降であったため、部活の引退が影響していると考えられる（調査時期によるバイアス）

6. 現在、よく利用しているLINEのグループトークの数



7. グループトークの中で、よく利用するグループ (複数回答可)

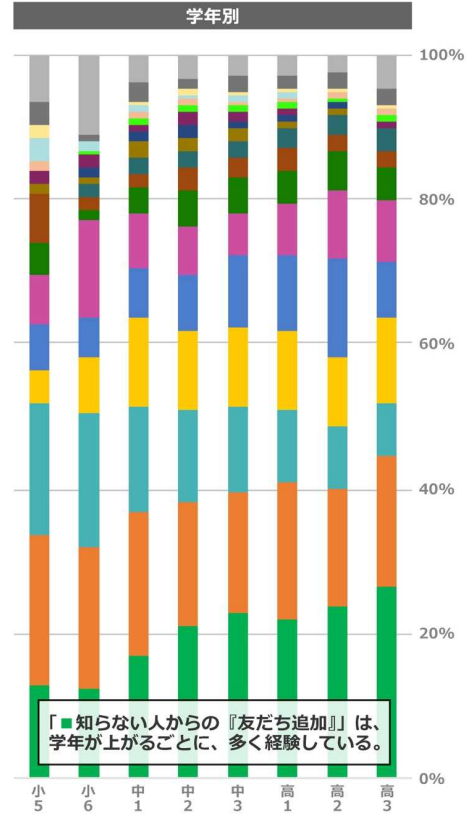
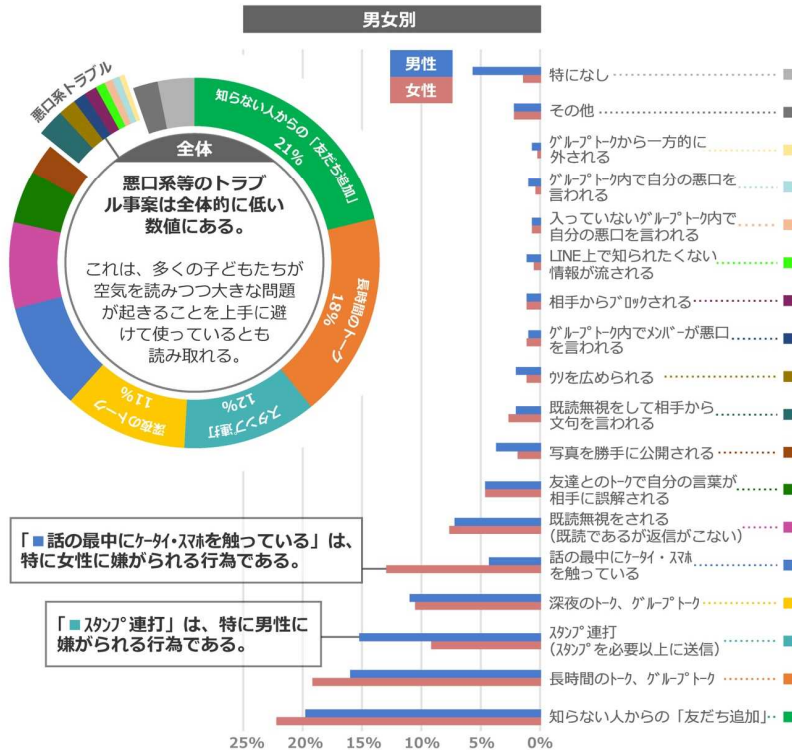
- 各年代とも、現実社会の既存の人間関係を中心にLINE上でもコミュニケーションをしている。
- トーク同様、男性よりも女性の方がコミュニケーションが多様化している。



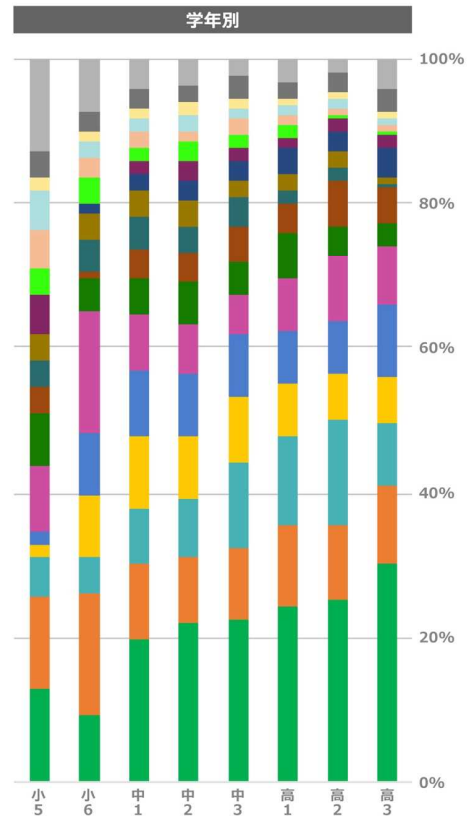
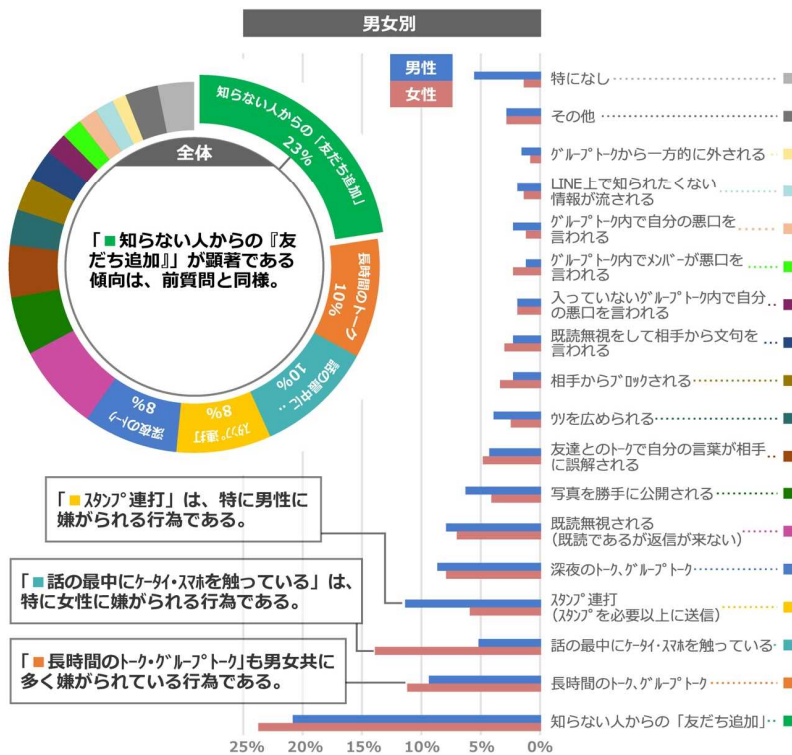
※ 中学3年生の「部活動の友達」「部活動全体」が減少しているが、調査時期が10~12月であったため、部活の引退が影響していると考えられる。(調査時期によるバイアス)

8. LINEを利用して多く経験した「嫌なこと」

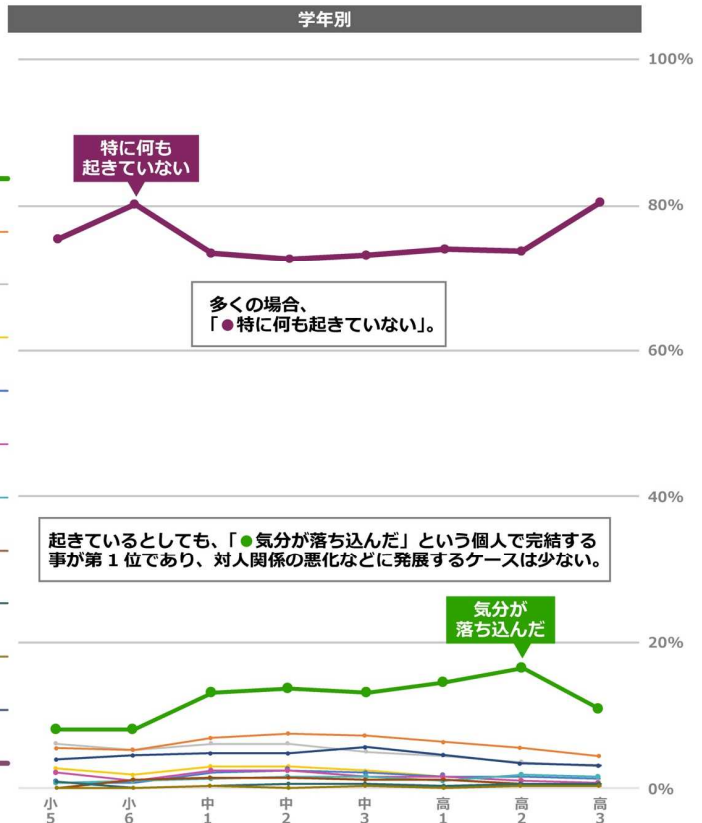
※ 「1番多く経験」したものを集計



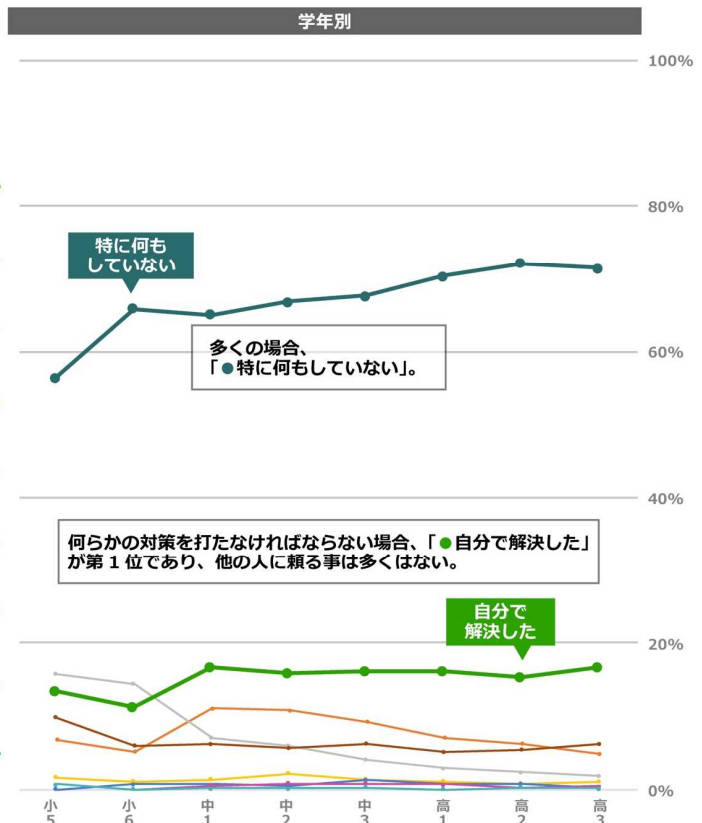
9. 最も「嫌だな」と思った経験



10. 最も嫌だなと思った経験をした結果（複数選択可）



11. 最も嫌だなと思った経験をした後の対応（複数回答可）



データから見える子どもへの対応ポイント

1. 子どもの道徳心を育む必要性

子どもたちがLINEで経験した「嫌だな」と思った内容には、一部ネット特有の事象もありますが、その多くは現実社会で起こりうる内容を多く含んでいることが読み取れます。トラブル傾向にネット上での特異点が少ないことから、子どもへの教育は、通常のモラル教育の実践が有効であるといえます。

2. スマホ又はLINEの利用開始時のコミュニケーション

スマホやLINEの利用開始時に、利用時間が伸びる傾向にあります。このタイミングで子どもにインターネットの理解やリスク意識がないと思われ、トラブルに巻き込まれる危険性があります。利用方法や利用時間はもとより、インターネットの特性や危険性について、利用開始時に子どもとコミュニケーションしておくことが大切です。

3. 子どもが相談できる環境づくり

子どもがLINE上で嫌な経験をした際に、家族や先生に相談する割合はそれほど高くありません。海外のレポートでは、大人への相談割合が高い国では、インターネットの安全性を普段から大人と話している背景があるという報告もあります。普段からインターネットに関するコミュニケーションを子どもと持つ等、子どもがトラブルに巻き込まれた際に、ひとりで抱え込まず誰かに相談できる環境づくりを行うことが、重症化を防ぐ重要な要素となると考えられます。

LINE が実施する対策



特定個人とのコミュニケーションに優れた「LINE」

コミュニケーションのインフラとして、

コミュニケーショントラブルや犯罪防止には全力で取り組みます。

インターネットを
安全に 利用できる環境を整える

安全 = リスクを受容可能なレベルまでに抑えた状態
 (100%の安全は存在しない)

安全の実現に必要なもの = 人間・社会・システム

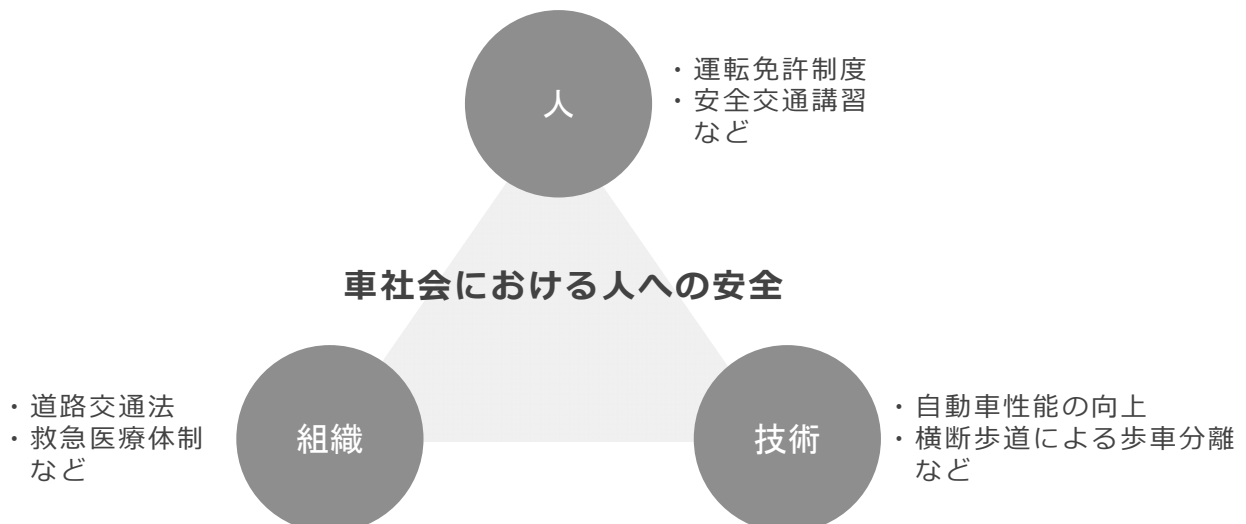
安全 (リスクを受容可能なレベルまでに抑える) の例：自動車

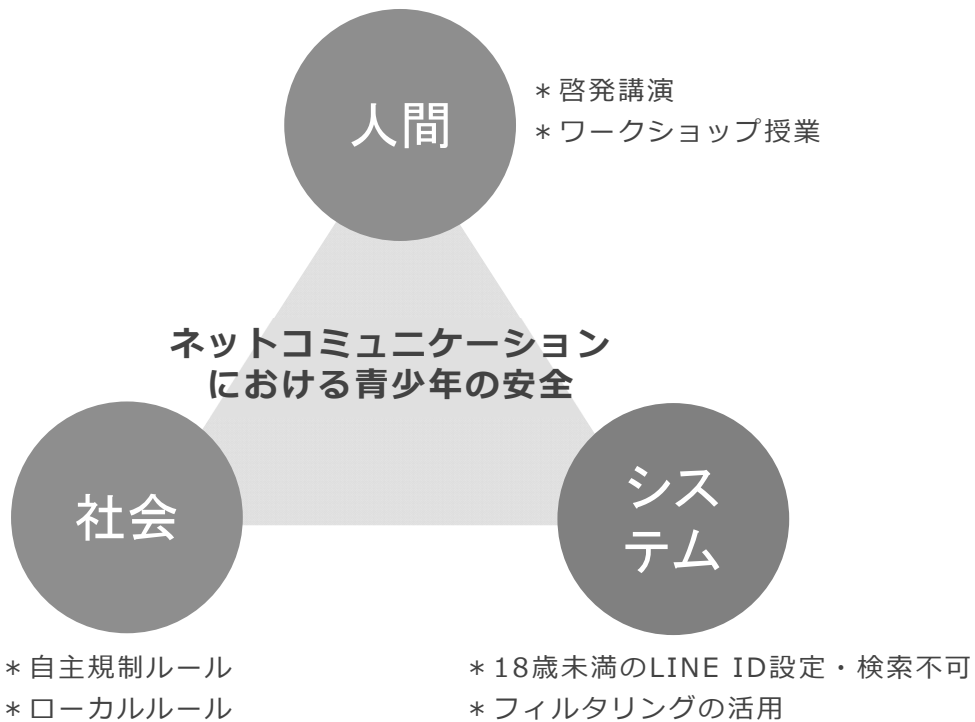


① **リスクの見積もり**

例：自動車事故で年間最大1万人が死亡

② **リスクの回避**





ネットコミュニケーションにおける青少年の安全も同様

機能面での対策① 年齢情報を用いた機能制限



18歳未満の利用者、年齢認証を行わない利用者のLINE IDの検索機能を制限しています。

異性交際を目的としたID交換

友だちを探すためのインターネット掲示板やアプリなど弊社が認めていない外部サービスが存在します。そのサービス利用者は、LINE ID を自ら公開しています。



インターネット掲示板例

これに対する弊社の対応

- ① 利用規約での禁止事項に明記
- ② 公式ブログやウェブサイトで注意の喚起
- ③ サービス運営側への停止依頼
- ④ 18歳未満の利用者のID検索機能制限



アプリ例

- 年齢認証は、各携帯電話会社の利用者登録情報を元に行います。携帯電話事業者の年齢判定サービスを活用して18歳以上か18歳未満かを判別します。(生年月日はLINE株式会社に公開されません)
- 契約者情報ではなく、利用者情報で確認しています。正しい年齢情報を確認する為には、**ご契約の携帯電話会社で皆さまを利用者として登録**している必要が有ります。



年齢認証の方法

- ① LINEの初期登録時
- ② 既にLINEをお使いの方も、以下の手順で年齢認証を行えます。
LINEを起動 ▶ その他 ▶ 設定 ▶ 年齢確認

年齢認証時の画面遷移

① 初期登録時



携帯電話会社での同意確認
NTTドコモの例



ID検索利用不可



18歳以上であることの確認が取れないと...

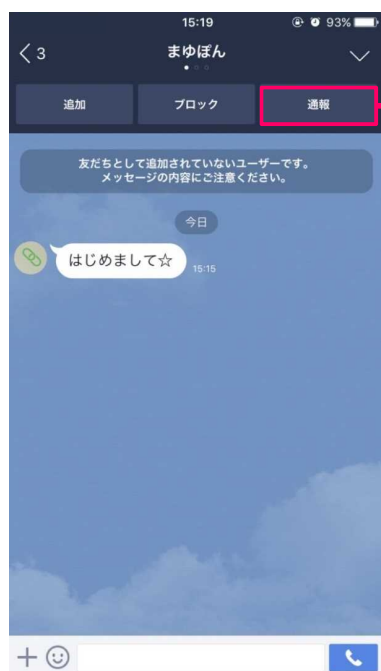
② 利用開始後



他者がID検索をした結果表示に載らない



迷惑な内容のトークが送られてきたら、LINE株式会社に通報することができます



通報すると、該当ユーザーから受信した最新100件までのトーク内容と当該ユーザーの情報が送信されます。

不適切な利用者であると判断した場合、当該ユーザーはLINEの利用が制限されます。



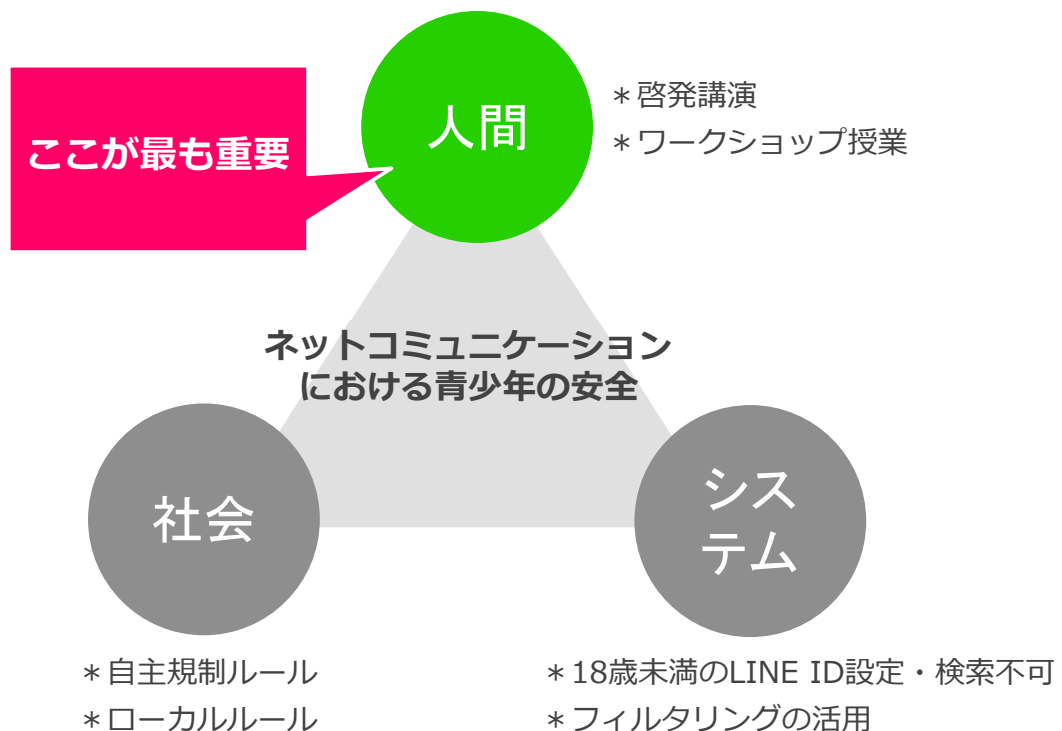
LINEは、青少年の安心安全な利用への対応が評価され、青少年保護のための審査機関であるEMAが実施する「モバイルコンテンツ運用管理体制認定制度」の適合認定を取得しています。

この認定を受けたサイトやアプリは、「青少年インターネット環境整備法」において各携帯電話事業者が青少年を対象に行っているフィルタリングの制限から解除されます。

フィルタリングとは

インターネットコンテンツを一定の基準に従って判別し、閲覧を制限する機能のこと。各携帯電話事業者より申込みが可能です。単純なウェブサイトのための制限から、利用時間やアプリ等を制限できるスマートフォン用のサービスなど各種あります。

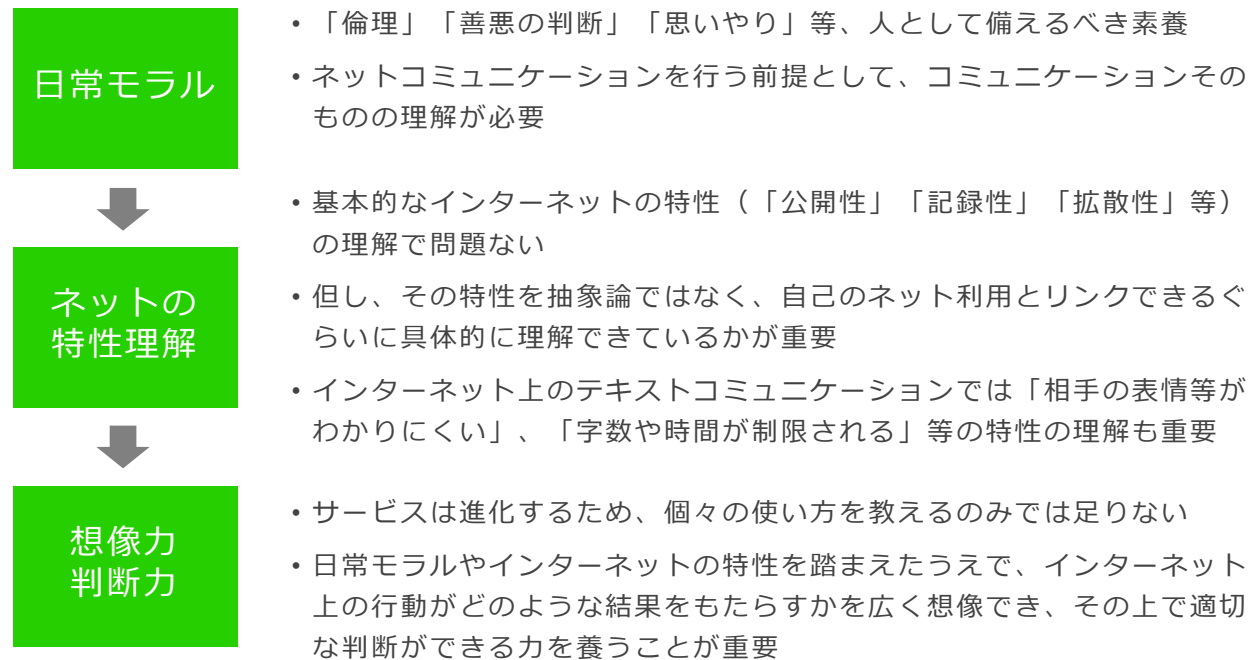
参考URL) 安心ネットづくり促進協議会「フィルタリングサービスを利用しましょう!」 <http://sp.good-net.jp/filtering/>



使う人の意識を向上させる教育がなければシステムも機能しない

カギは情報モラル教育

情報モラル = 日常モラル × ネットの特性理解 × 想像力/判断力



従来の情報モラル教育

1. 講師から生徒への知識教授型授業

- （現状）講師による一方的な「知識」の教授がメイン
- （課題）知識の教授のみでは、行動変容にはつながりにくい
→ 特に「コミュニケーショントラブル」はその傾向が強い

2. トラブル事例の提示

- （現状）過度なトラブル事例を示して「怖がらせる」ことが主な目的になっている
- （課題）日常の使用感覚と乖離した事例は子どもには「他人事」となりやすい

3. ルールを作る

- （現状）学校や行政が中心となり、「ルール」を決めることで適切な利用を促す
- （課題）「ルール」作りが目的化し、運用の硬直化、形骸化をもたらす可能性

LINE株式会社が実践するネットリテラシー啓発活動

1. 「生徒主体」型の授業

- ・「解は子どもが持っている」という考えのもと、授業プログラムを作成
- ・特にワークショップ型授業では、児童・生徒間の対話を重視

2. 「自分事」として考えられる素材の提供

- ・身近な事例を題材（「すぐに返信がない」「なかなか会話が終わらない」）
- ・トラブルが起こらないための対応だけでなく、トラブルが起こったときの対応についてもケーススタディ形式で学習

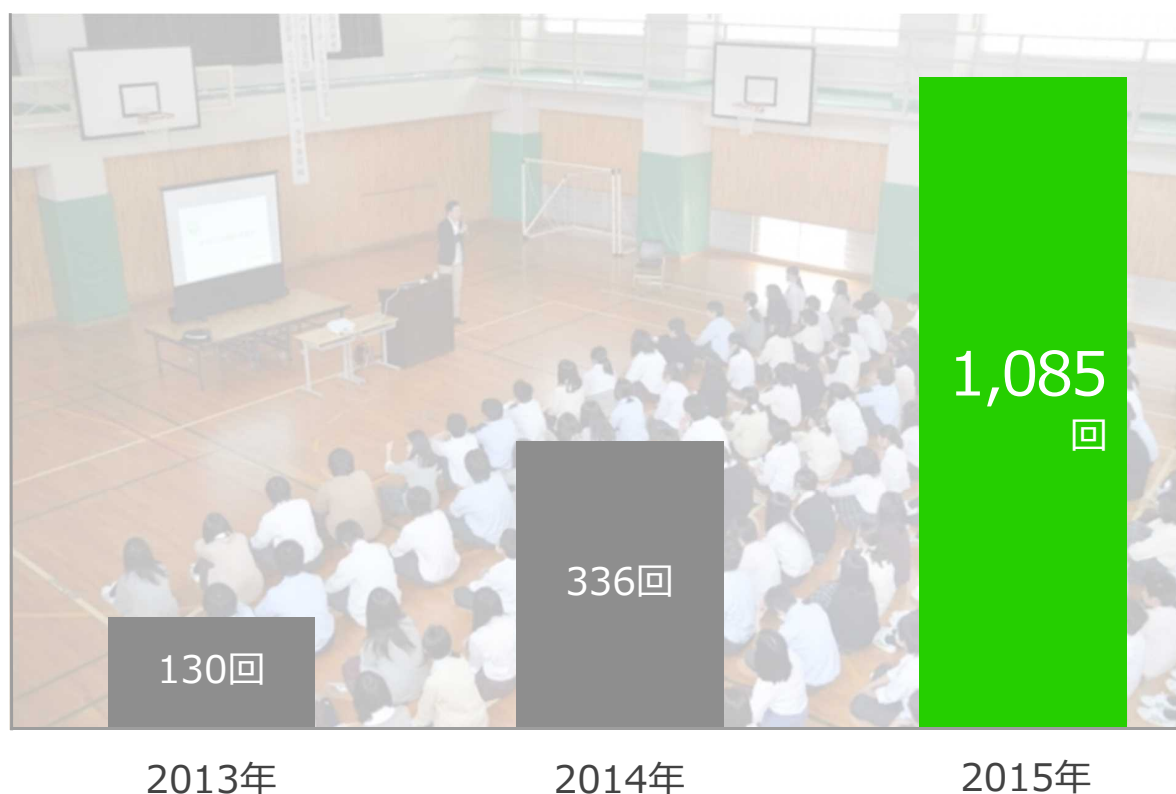
3. 「考える」ことを重視

- ・正解のない事案を提示し、様々な視点や価値観を知る
- ・知識の共有から「知見」の共有へ

※LINEが実施する授業は「きっかけ」にすぎず、継続的に学校現場で情報モラル教育を実施していただくことが重要と考え、弊社のワークショップ教材は、学校現場でご活用いただくように無償公開しています。

LINEの取り組み① 啓発講演（児童・生徒、教職員、保護者）

年間実施回数



2015年11月ワークショップ教材第2弾をリリース

児童・生徒向けのアンケート調査結果を踏まえ、
静岡大学と重要なテーマごとに教材を再開発いたしました。

	NEW ① 基本編 「あたりまえ」の「ちがい」を考えてみよう	NEW ② 悪口編 「ネットで悪口を言わない」を考えてみよう	NEW ③ 写真編 「不適切な写真をアップしない」を考えてみよう	NEW ④ 使いすぎ編 「ネットやゲームをやりすぎない」を考えてみよう
基礎 (各20～25分) 問題を自覚させ、 ネットの特性を 考える	<ul style="list-style-type: none"> あなたと相手のイヤな言葉は？ あなたと相手のイヤなコトは？ 	<ul style="list-style-type: none"> あなたと相手のイヤな言葉は？ このスタンプどう感じる？ 	<ul style="list-style-type: none"> あなたと相手のイヤな写真は？ どの写真を公開しちゃう？ 	<ul style="list-style-type: none"> やりすぎて何時間？ やりすぎて時間だけ？
応用 (15～20分) トラブルが起きた 場合の対応を考える	<ul style="list-style-type: none"> ちがいがあると何が起きる？ 	<ul style="list-style-type: none"> もし、文字やスタンプを勘違いされたら？ 	<ul style="list-style-type: none"> もし、イヤな写真を公開されそうになったら？ 	<ul style="list-style-type: none"> もし、なかなか会話が終わらなかったら？

想定効果

自らリスクや問題を発見する力を育てます

この行動がトラブルにつながるんだ！と、自ら絵を読み解きながら問題を発見する力を育てていきます。文章で書かれたテキストブックは、とすれば「読んだだけ」になりがちですが、マンガ教材では絵を見て気づいたことを自分で言葉にするプロセスを経験できます。

生徒たちの生の声を引き出します

教員や保護者にはなかなか見えない、生徒たちのLINEの使い方や人間関係の作り方を引き出すことができます。マンガを見ながら「実際は～だよな？」「こういうことあるよね」と自由なコメントを促すことで見えてくるものがあるでしょう。教師側が、生徒の意外なネット利用の実態に気づく事も有るかもしれません。

※本教材は授業で使っていただくために教職員の方々に無償配布させて頂いております。

教材ダウンロード申込みウェブサイト：<https://linecorp.com/inquiry/textbook/form.html>
(ワークショップの詳細はこちらにてご確認ください。<http://line.me/safety/ja/workshop.html>)

学生とその保護者向けに「LINE安心安全ガイド」を公開

学生のみなさまへ

中高生を中心とした生徒のみなさん向けに、危険な人の見分け方、見知らぬ人とつながらないようにするLINEの設定方法、ネットマナーなどについてご紹介しています。

保護者のみなさまへ

学生のお子様をお持ちの方や先生方など保護者向けに、LINEの基本的な仕組み、青少年トラブルの実例、トラブルに巻き込まれないための指針をご紹介しています。

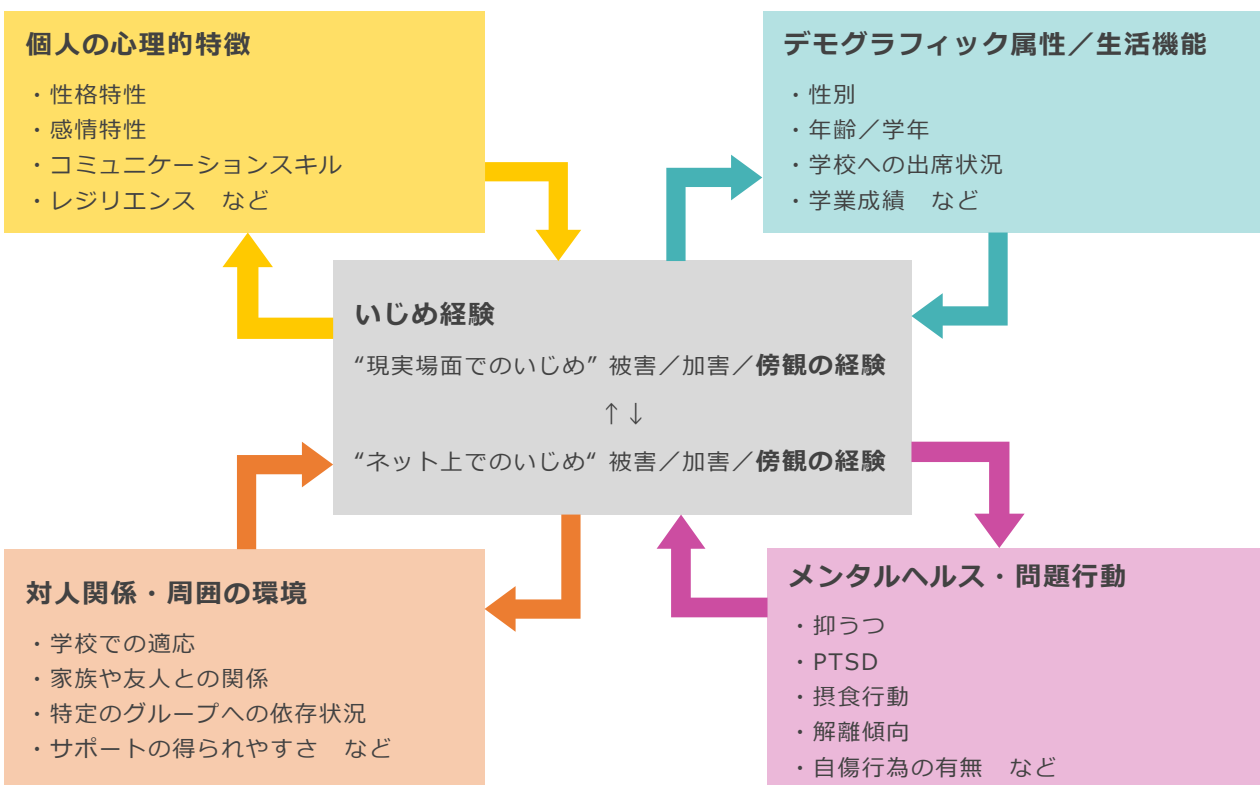
弊社の安全への取り組み

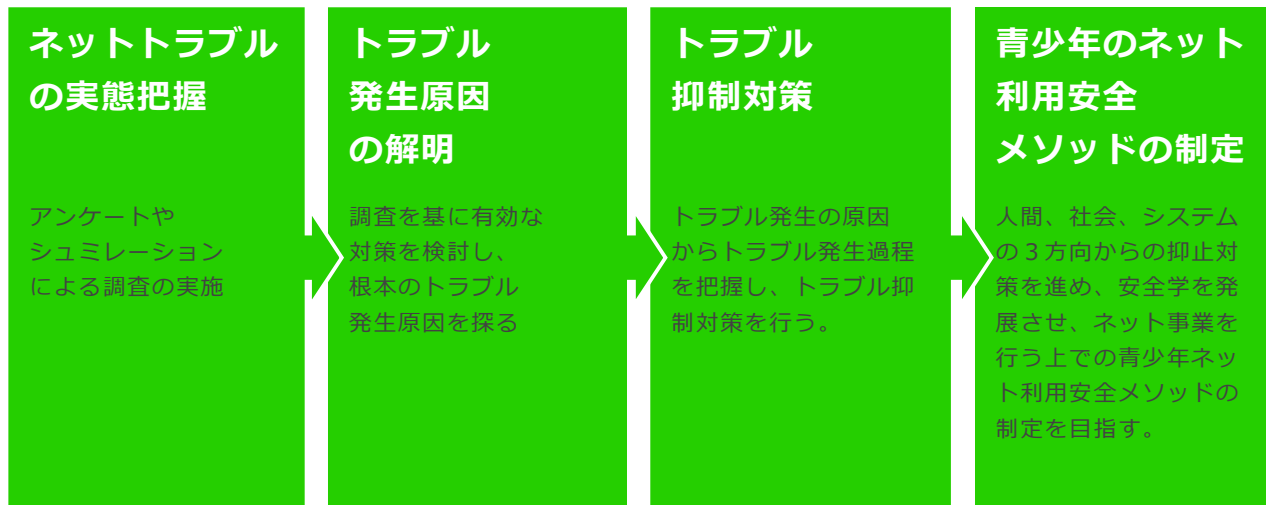
LINEを運営している弊社が、現在実施している取り組みをご紹介しています。



<http://line.me/safety/ja>

調査項目例（一部）





児童被害防止に向けて

2017/2/17

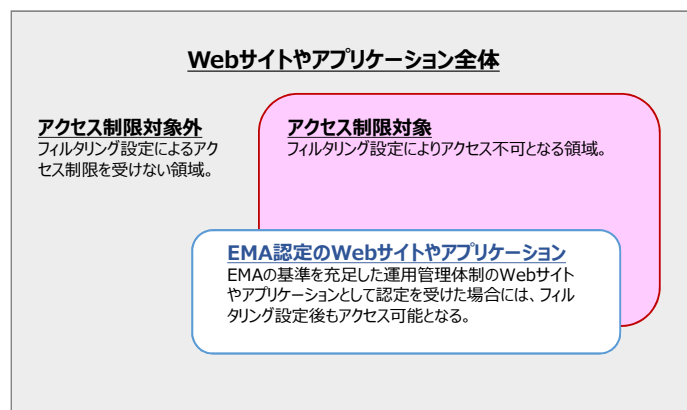


EMAモバイルコンテンツ運用管理体制認定制度

EMAの認定制度は、青少年のフィルタリング利用を促進するため、フィルタリングの改善活動の一環として、青少年の利用に配慮した運用管理体制を構築・維持しているWebサイトやアプリケーションを、フィルタリングのアクセス制限対象から除外する認定制度です。

本認定制度の認定基準に適合した運用管理体制のWebサイト及びアプリケーションは、携帯電話事業者が提供しているネットワーク型のフィルタリングやアプリケーションフィルタリングにおいて反映されます。

認定後は十分な運用管理体制が維持されているかをEMAが定期的に監視し、是正処置・認定取消を含む適切な対処を取ること、認定の実効性を維持します。



振り返り

- 2008年：EMA発足、EMA認定制度開始
- 2010年：【報道】「非出会い系サイトによる児童犯罪被害、過半数がEMA認定サイト」
- 認定サービスが対策を継続的に実施
- 現在：EMA認定サイトに起因する児童被害は一定数に抑制
⇒ 引き続き努力
- 現在：EMA認定サイト以外で児童被害が増加

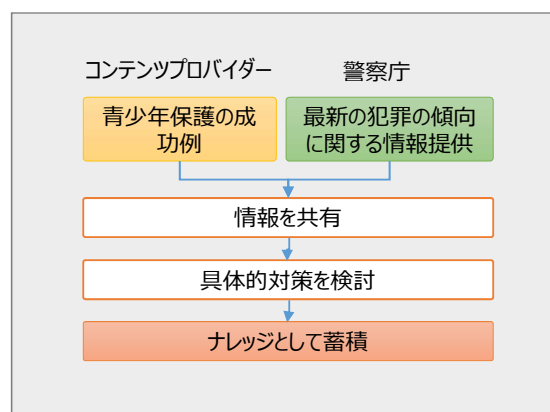
5

事業者間での連携

- スマートフォンの普及に伴い
 - ⇒ 新たなサービス・・・新たなリスク（？）
 - ⇒ 新たな事業者・・・青少年保護の認識・ノウハウが無い
 - ⇒ 海外の事業者・・・日本の事情がわからない

<対策>

- コンテンツプロバイダー間の連携
 - ⇒ 課題の共有
 - ⇒ ナレッジ（対策方法）共有

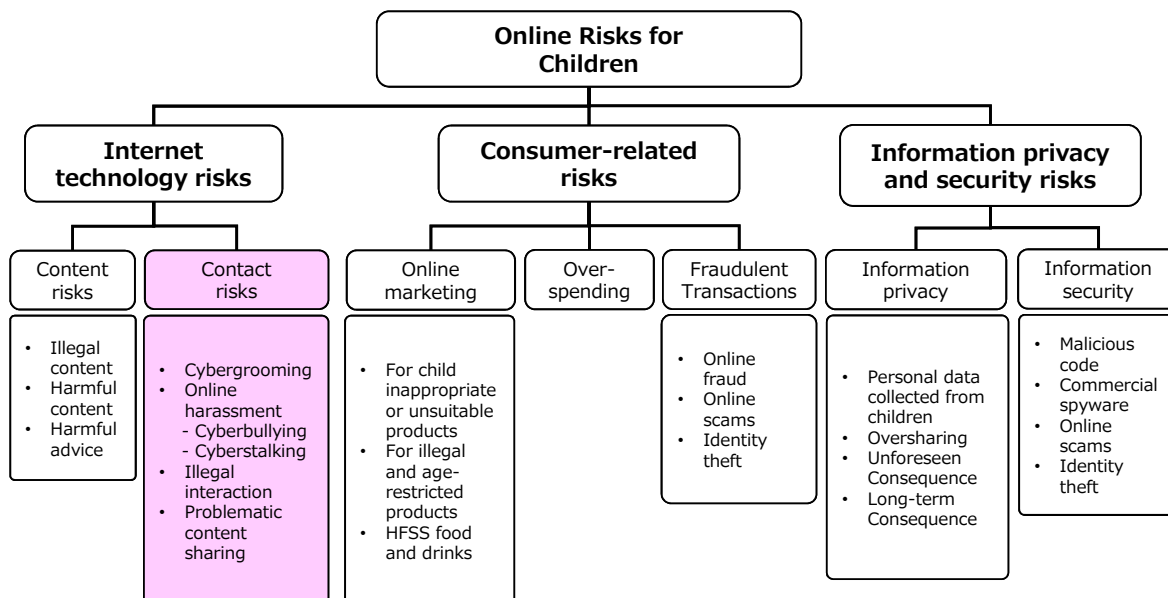


6

オンライン上の青少年のリスク

The Protection of Children Online (OECD) Typology of Risks 2012

(https://www.oecd.org/sti/ieconomy/childrenonline_with_cover.pdf)



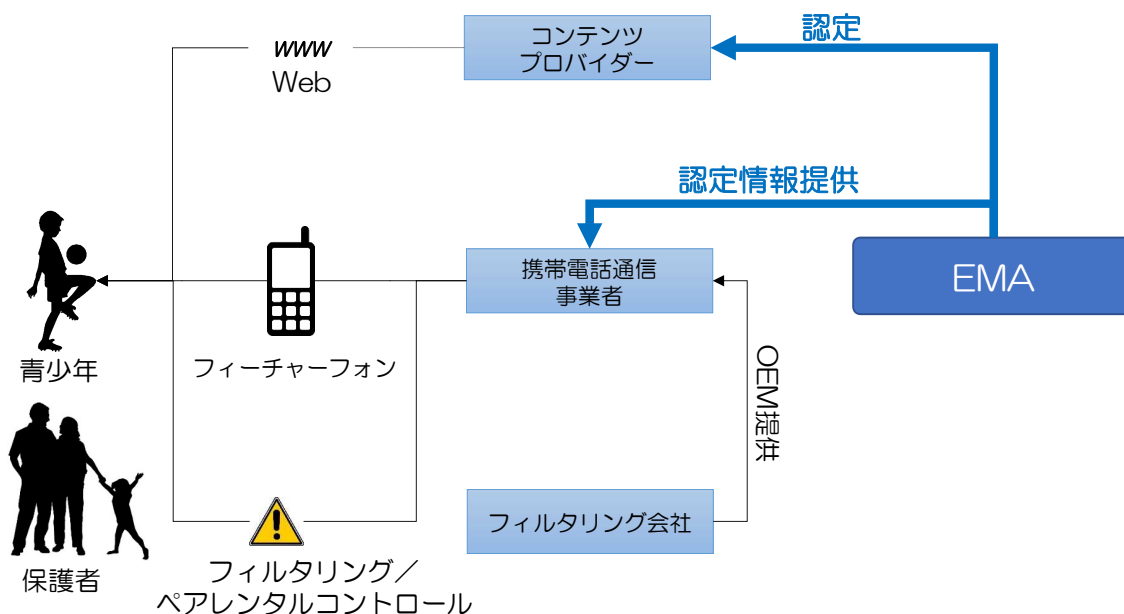
7

リスクと青少年保護施策

オンライン上の青少年のリスク Online Risks for Children		コンテンツプロバイダー	携帯電話事業者	OS	その他
インターネットに特徴的なリスク（青少年特有なオンライン上のリスク） Internet technology risks					
コンテンツリスク Content risks	違法情報/有害情報（性・暴力・犯罪・自殺）等の閲覧	・ ソーニング	フィルタリング提供	<ul style="list-style-type: none"> OS機能制限：コンテンツの許可（Webサイト/App/ムービー etc...） iPhone：ファミリー共有 	検索エンジン：セーフサーチ
コンタクトリスク Contact risks	児童誘引 誹謗・中傷 等	<ul style="list-style-type: none"> 投稿対応 ユーザー対応 	フィルタリング提供	<ul style="list-style-type: none"> OS機能制限：コンテンツの許可（Webサイト/App） iPhone：ファミリー共有 	年齢情報の利用：コンテンツプロバイダーが年齢によってソーニングすることにより児童誘引対策を推進
消費者リスク Consumer-related risks					
オンライン取引 Online marketing	青少年に適さない商品 等	・ ソーニング	フィルタリング提供	<ul style="list-style-type: none"> OS機能制限：コンテンツの許可（Webサイト/App/ムービー etc...） iPhone：ファミリー共有 	年齢情報の利用：コンテンツプロバイダーが年齢に課金上限額等を行うことにより青少年の過剰な高額課金を抑止
使いすぎ Overspending	過剰消費 等	・ 自主規制		<ul style="list-style-type: none"> OS機能制限：アプリ内課金 	
悪質サイト・詐欺サイト Fraudulent Transactions	ネット詐欺 等		フィルタリング提供	<ul style="list-style-type: none"> Safari：詐欺Webサイト警告 	
プライバシー・セキュリティ Information privacy and security risks					
プライバシー Information privacy	個人情報/位置情報 等	公開範囲設定	フィルタリング提供	OSでプライバシーの管理機能を提供。各アプリへの利用許可設定ができる。	
セキュリティ Information security	マルウェア スパイウェア 等			ウイルス対策	ウイルス対策ソフト

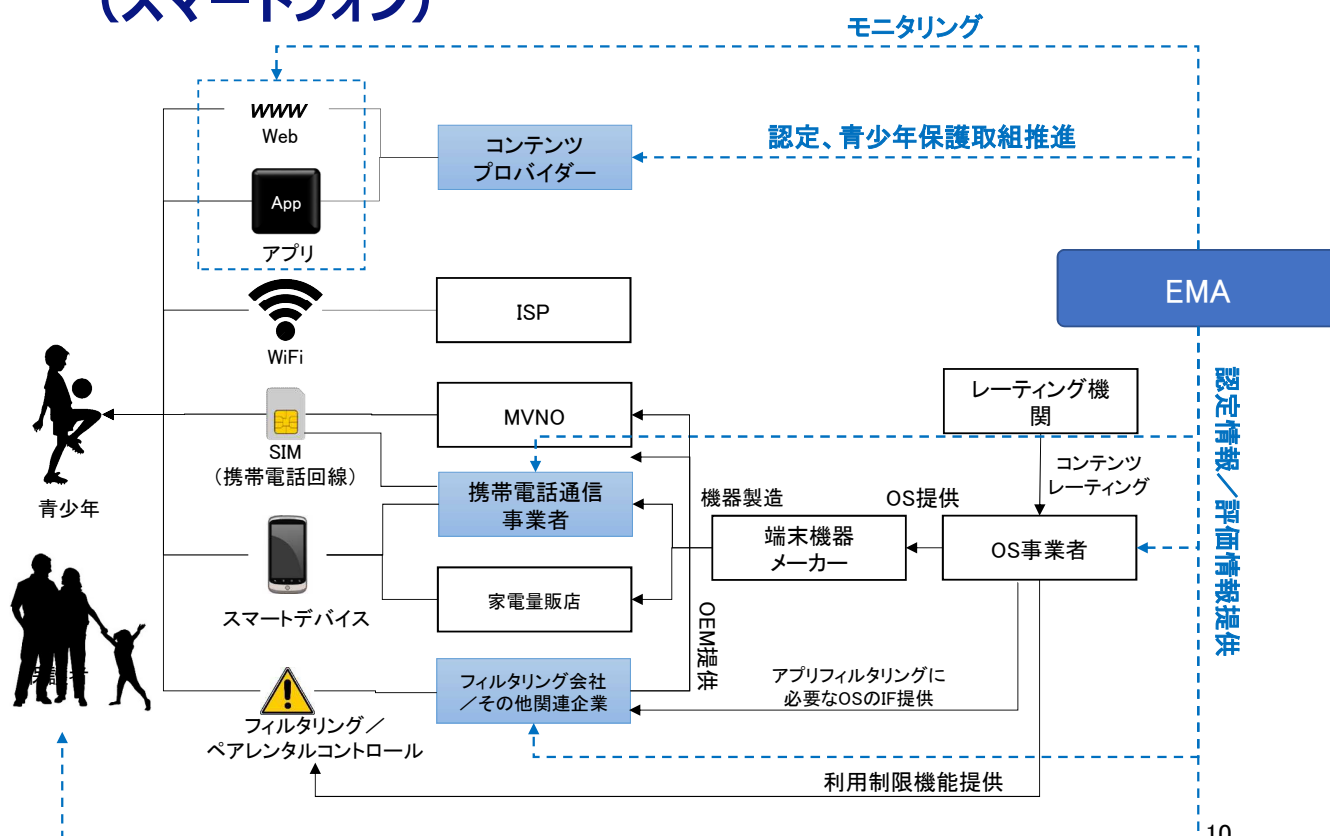
8

青少年のネット利用を取り巻く環境 (フィーチャーフォン)



9

青少年のネット利用を取り巻く環境 (スマートフォン)



10

今後に向けて

- 青少年のネット利用の課題（リスク）は多種・多様
⇒ 各課題（リスク）にフォーカスした集中的な検討が必要
- コンテンツプロバイダーに限らず多様なステークホルダーによる青少年保護の取組み・連携が必要
※（例）キャリア：年齢情報←連携→CP：ゾーニング
- 青少年・保護者が現状を正しく知る（普及・啓発）
⇒ 安全なサービスが評価・選択される社会

11

ご清聴ありがとうございました。

ご不明な点があればお問い合わせください。

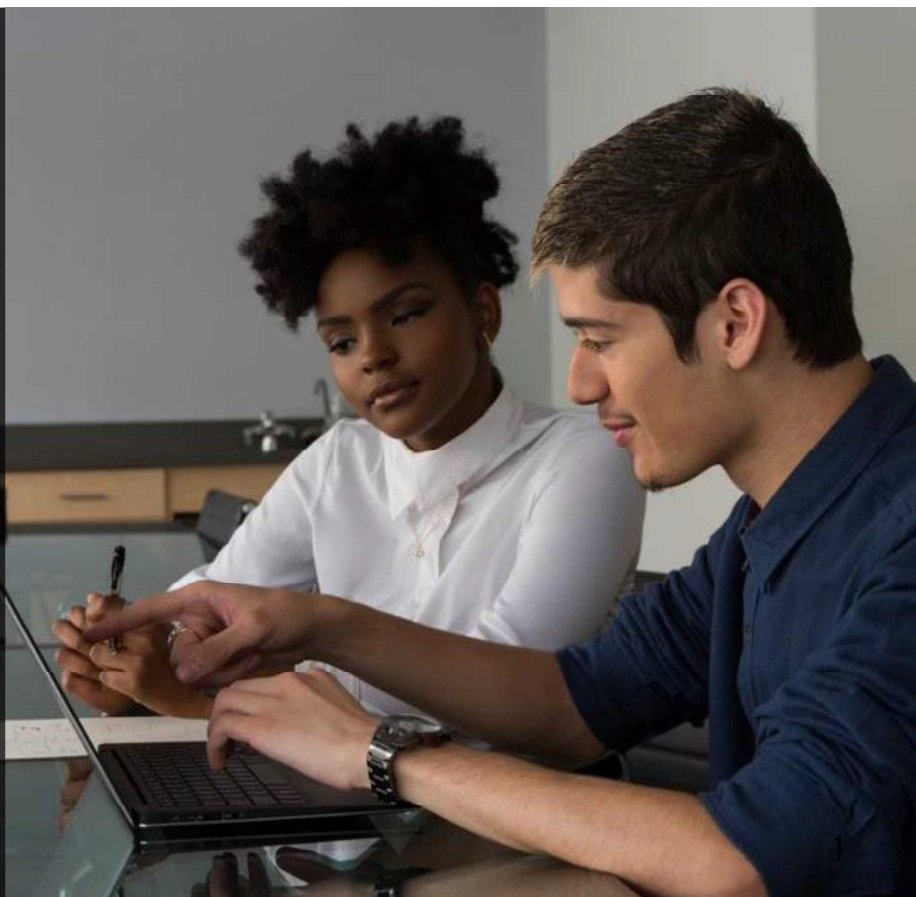
一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構（EMA）
事務局長 藤川 由彦
03-6913-9235
fujikawa_y@ema.or.jp
<http://www.ema.or.jp>

12

責任あるクラウド: オンライン被害防止

2017.2.17

日本マイクロソフト株式会社
片山 建



The "4 Cs" of online risks

Content



Questionable
Inaccurate and inappropriate
Extreme or hateful
Illegal

Contact

Target



Unwelcome and unwanted
Online bullying, stalking, or harassment
Child grooming/ predation

Conduct

Actor



Piracy or IP theft
Online bullying, stalking, or harassment
"Digital footprint"

Commerce



Solicitations
Privacy issues
Identity theft



What is online safety?

Online safety is about maximizing desirable online experiences and minimizing those tied to illegal, inappropriate, or illegitimate **content, contact, conduct, and commerce** (“The 4 Cs”)

Protecting children online is a key component.

3

Policy recommendations

Strengthen and enforce laws

Support public-private partnerships

Promote global cooperation

Promote consumer protection

Support industry self-regulation



4

Primary Public-Private Partnerships & Initiatives



www.weprotect.org



www.stopthinkconnect.org

5

NPO-Industry

<https://www.wearethorn.org/>

thorn

The Issue Our Work Innovation Lab Get Involved We're Hiring

f t in

YOUR SKILL IS YOUR SUPERPOWER

Drive Tech Innovation to Fight Child Sexual Exploitation

BECOME A DIGITAL DEFENDER

6

